

## 第10次厚木市総合計画

## 第2章

## 基本計画

## 6

## 地区別プラン

地区別プランは、市民に身近な自治会区域を基本とした15の地区に分類し、各地区で行った意見交換会などでいただいた地区の現状や課題を踏まえ、基本計画で取り組むべき主な施策の方向性を示すものです。

各地区の「主な施策の方向」では、「まちづくりのビジョン別プラン」で定める「施策の方向」との関連を示しています。

なお、地区別プランに記載されていない施策についても、全市的に施策を推進していくものについては、まちづくりのビジョン別プランに基づいて、全市的に取組を推進していきます。

※地区ふれあい宣言は、地区ごとの様々な自然や文化などの特色をいかし、より良い地域づくりの指針とするため、平成27年2月1日に宣言したものです。

※地区別マップの道路は、都市計画道路<sup>※</sup>等、主な道路を記載しています（整備済みの道路は色付き）。

※地区別マップの凡例

(避)……指定避難所。災害、又はその危険性により住居に戻れなくなった市民などが長期的に滞在するための施設

(広)……広域避難場所。火災が延焼拡大したとき、ふく射熱や煙から身を守る場所。荻野運動公園(p.181)、本厚木カンツリークラブ(p.185)、ぼうさいの丘公園(p.188)が指定されています。

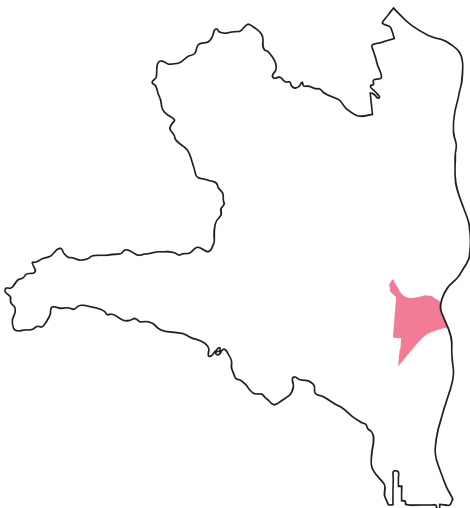
(緊避)……指定緊急避難場所。災害発生時又はその恐れがある場合に、その危険から逃れるため緊急的(短期的)に避難する施設又は場所(風水害時は各地区公民館。災害の状況により児童館や老人憩の家等も開設)

# 厚木北地区

## ふれあい 宣言

厚木北地区は、東の玄関口として、古くは小江戸と言われ、厚木宿として人が集い栄えてきました。

この文化や歴史を継承し、さらに中心市街地としての活性化を図るとともに、犯罪の発生しにくい環境づくりを進め、安心して安全に暮らせる地域づくりを目指します。



# 私 たちの まち 厚木北

②  
相模川

## 地区の特徴

- 厚木北地区は、厚木南地区と共に本市の中心市街地を形成しており、商業・業務、行政などの多様な機能が集中しています。
- ①厚木青少年広場や付近の道路沿いは、春には桜が咲き誇り、厚木北地区が主催する「厚木観光桜まつり」でライトアップするなど、お花見スポットとして市民に愛されています。
- ②相模川や③小鮎川、④中津川といった豊かな水辺環境があり、初夏にはアユ釣りで多くの太公望が訪れます。
- ⑤三川合流点は、市内最大のイベントである「あつぎ鮎まつり」大花火大会の会場となっているほか、地区で行うどんど焼きや日常のレクリエーション等の場としても利用され、多くの方でにぎわいをしています。
- 江戸時代には「小江戸」と呼ばれ、相模川を利用した河川交通、大山街道の要衝として商家が軒を連ね、産業や文化の中心として栄えてきました。
- ⑥厚木神社は、夏祭りでは神輿、元旦には初詣と市内外からの多くの方でにぎわっており、地区のシンボルとなっています。
- わたなべかざん 渡辺華山\*の<sup>あつぎろくしょう</sup>「厚木六勝」に描かれた厚木の渡しには現在⑦渡船場跡の碑が建てられており、歴史探訪の場として、多くの方に親しまれています。
- ⑧厚木中央公園は、大型の複合遊具と広い多目的広場があり、毎日、たくさんの子どもや家族連れでにぎわっています。また、東屋やベンチもあり、世代を問わず、大勢の方の憩いの場として親しまれています。

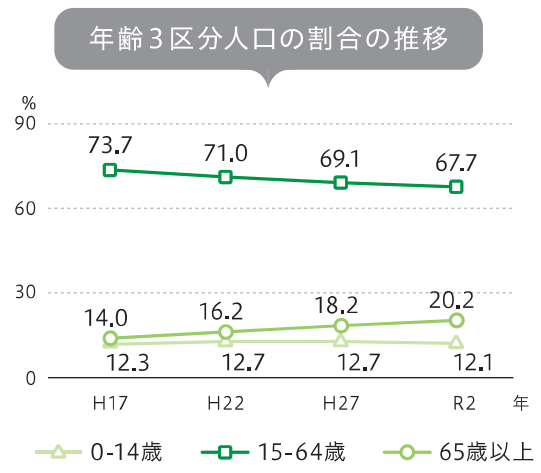
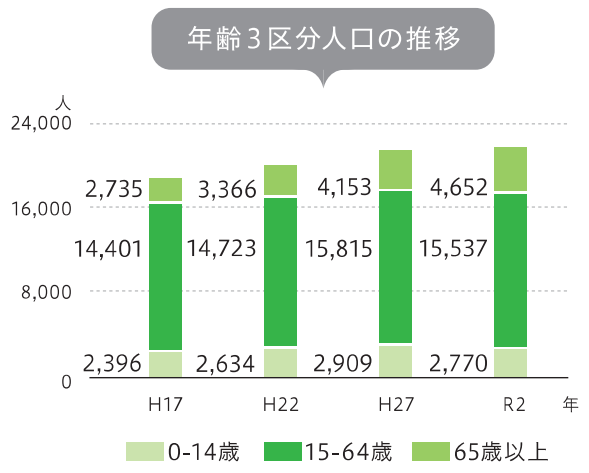


私 たちの目指すまちの姿

文化や歴史を継承し、中心市街地としての  
活気に満ちた、安心して安全に暮らせるまち 厚木北

地区の概要・データ

- 人口（令和2年10月） 22,959人 （市全体の10.3%）
- 世帯数（令和2年10月） 12,079世帯 （市全体の11.4%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 厚木北地区の人口は、22,959人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は12.1%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は67.7%、老年人口(65歳以上)の割合は20.2%となっています。  
市内15地区中3番目に人口が多く、生産年齢人口の割合は市内で最も高くなっています。  
[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 本厚木駅東口周辺では図書館機能、科学館機能、市庁舎機能を中心とする複合施設の整備が進められています。
- 厚木北公民館、厚木北児童館の再整備が進められています。
- 地区内には、道路が狭く木造住宅が密集している市街地があります。また、中心市街地では大型マンションの立地が進み、人口が増加しています。
- 局地的集中豪雨に対する本厚木駅周辺の浸水被害軽減対策として、地区内で雨水貯留管の整備が進められています。
- 国道246号が地区内を通過しており、接続している道路を多くの車両が通行し、朝夕の通勤、通学時間帯は交通混雑が発生しています。



## 地区の皆さんが感じている課題

- 相模川、小鮎川の治水機能の向上
- 地域の福祉やコミュニティを支えるボランティア団体など各種団体の担い手不足の解消
- 地域の文化や歴史の次世代への継承
- マンション建設等により予測される児童・生徒数の増加への対応
- 住宅地における狭あい道路の改善
- 本厚木駅周辺の更なる交流とにぎわいの創出
- 本厚木駅周辺の防犯及び治安対策の継続
- 国道246号に接続する道路の混雑緩和
- 安全で快適な歩行空間の確保
- 三川合流点を始めとした水辺環境の保全や整備の推進、本市の魅力向上につながる活用

### 主な施策の方向

- 相模川、小鮎川では、自然災害に備えた計画的な治水事業の促進に取り組みます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 行政、関係団体、ボランティアなどが一体となって、高齢者や子育て世帯に対する地域での福祉活動に取り組むとともに、地域福祉を支えるボランティアをサポートする取組を推進します。

#### 2 地域福祉活動の推進

- 明治38(1905)年夏から謡われている厚木音頭や、渡辺華山が描いた「厚木六勝」が伝える華山厚木来遊の歴史など、地域の文化や歴史を保存・継承するための取組を推進します。

#### 3 郷土文化の継承と発展

- 小・中学校の適正規模・適正配置の検討に取り組みます。

#### 4 安全な教育環境の整備

- 中町第2-2地区に、市庁舎等の行政機能や図書館等の文化機能などが集積した複合施設を整備するとともに、本厚木駅周辺の歩いて楽しい回遊性の高いまちづくりに取り組み、更なる交流とにぎわいの創出や、地域経済の活性化を図ります。

#### 5 中心市街地等の都市機能の向上

- 都市計画道路\*の整備や交差点の改良等を促進し、歩行者の安全に配慮した道路環境の向上を図ります。

#### 6 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進

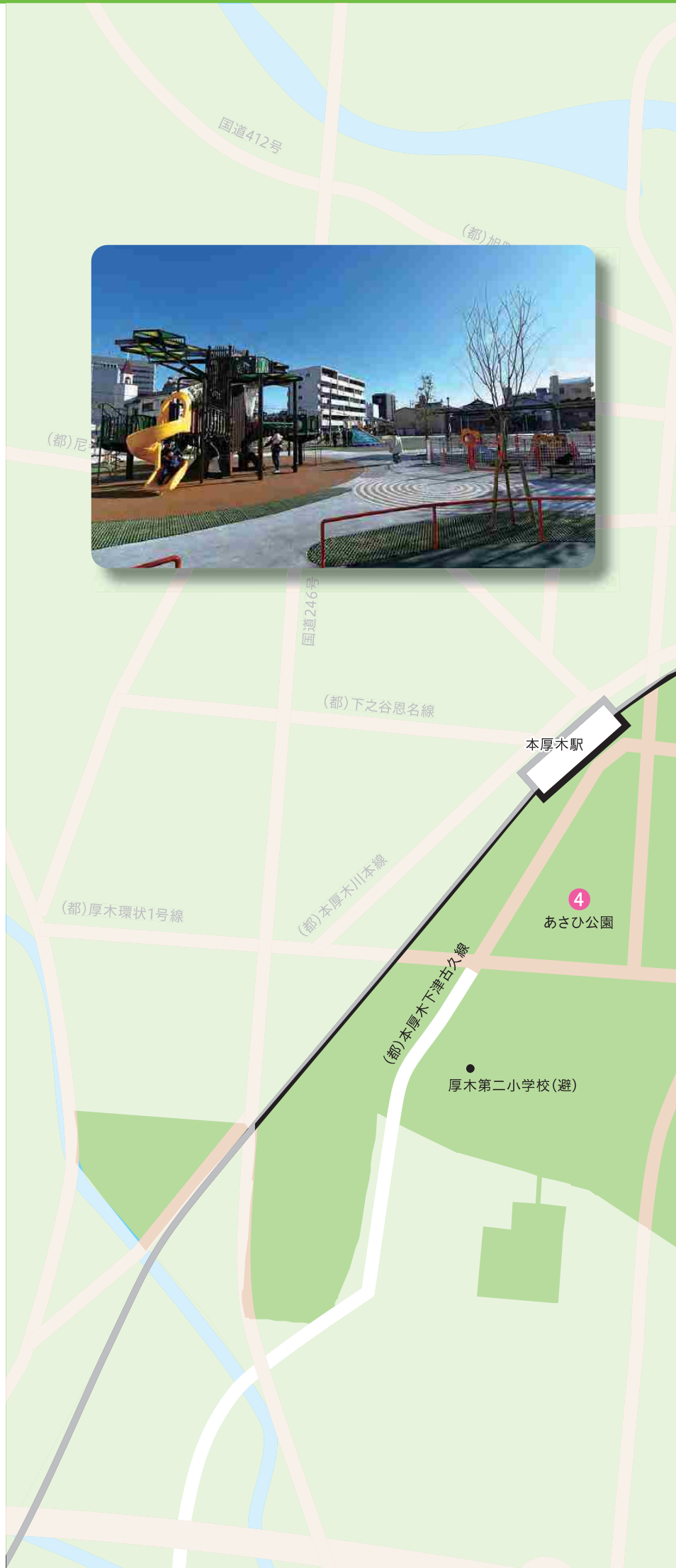
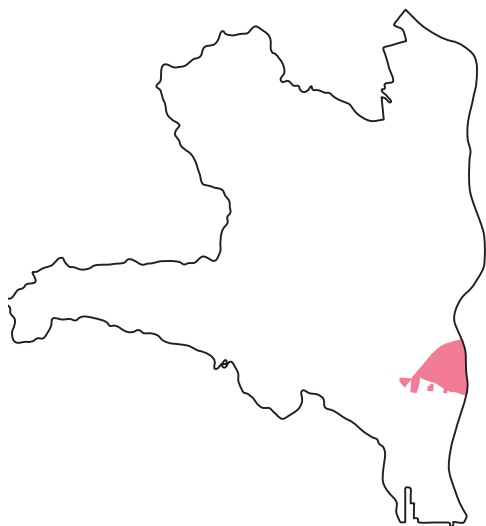
- 相模川や小鮎川、三川合流点などの自然環境の保全を促進するとともに、水辺に近接する市街地環境をいかした触れ合いの場の創出を推進します。

#### 7 親しみやすい河川環境の整備

# 厚木南地区

## ふれあい 宣言

厚木南地区に住むわた  
くしたちは、清流相模川や  
厚木六勝あつぎろくしょうにも描かれた熊野  
の森など美しい自然と豊か  
な文化を守り育ててきた先  
人の努力を尊重するととも  
に、みんながあいさつを交  
わし絆を深め、助け合いの  
精神を大切にすることを宣  
言します。



# 私たちのまち 厚木南

## 地区の特徴

- 厚木南地区は、厚木北地区と共に本市の中心市街地を形成しており、東側に流れる相模川の河川敷にはスポーツ広場や遊歩道などが整備され、散歩コースとして市民の憩いの場となっています。
- ① 相模川ローズガーデンでは、バラの開花時期に合わせて「相模川ローズガーデンフェスティバル」が開催され、多くの市民に楽しまれています。
- ② 厚木南青少年広場上段の歩道には桜並木があり、春にはきれいな桜の下を歩き、お花見を楽しむことができます。
- ③ 熊野神社には、本市の指定天然記念物である樹齢約500年と推定されるイチヨウがあり、地区のシンボルとなっています。また、神社の付近は古くから「熊野の森」と言われ、渡辺華山<sup>わたなべがさん</sup>※の「厚木六勝」の一つに描かれています。
- 厚木南青少年広場では、小正月(1月15日)の時期にどんど焼きが盛大に執り行われています。
- ④ あさひ公園では、毎年、子どもから高齢者までが触れ合う盆踊り大会が開催されています。
- サッカー場兼ソフトボール場がある⑤ 旭町スポーツ広場やソフトボール場とゲートボール場がある厚木南青少年広場では、多くの方がスポーツを楽しんでいます。
- あさひ公園の地下には、浸水被害軽減対策として小学校のプール約40杯分の雨水を貯めることができる貯留施設があります。
- ボランティアによる見守り活動や清掃活動が活発なことから、安全できれいな環境が維持されています。

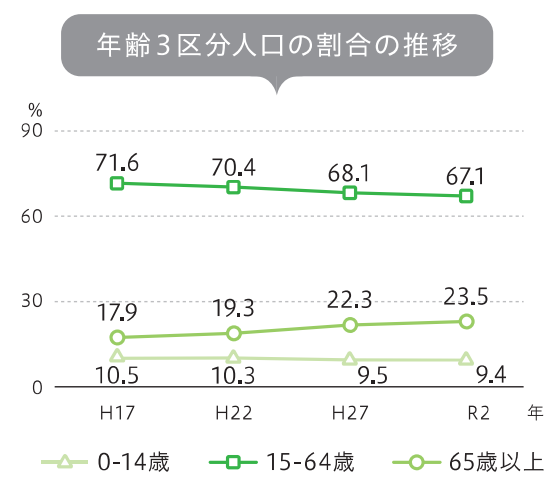
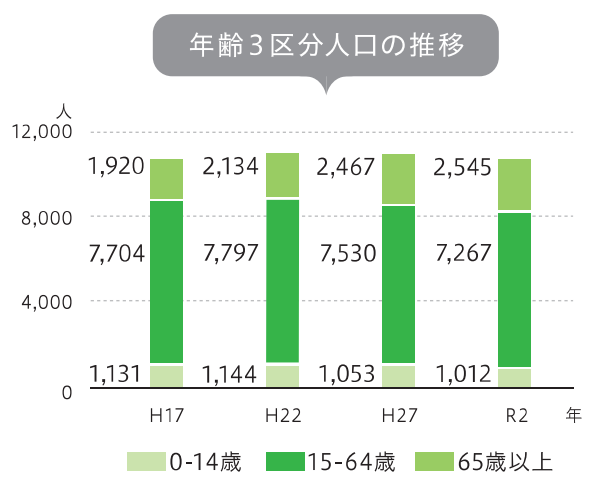


私 たちの目指すまちの姿

深い絆と助け合いの精神でつながりあう  
美しい自然と豊かな文化のまち 厚木南

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 10,824人 （市全体の4.8%）  
■世帯数（令和2年10月） 5,997世帯 （市全体の5.7%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 厚木南地区の人口は、10,824人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は9.4%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は67.1%、老年人口(65歳以上)の割合は23.5%となっています。
- 市内15地区で比較すると、年少人口及び老年人口は3番目に低い割合で、生産年齢人口は2番目に高い割合です。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 本厚木駅南口では、駅前広場の拡充や地下に市営自転車駐車場を備える地上22階建ての再開発ビルが整備され、交通結節点\*としての機能強化と魅力的な都市拠点の形成が図られています。
- 国道129号が地区内を通過しており、接続している道路を多くの車両が通行し、朝夕の通勤、通学時間帯は交通混雑が発生しています。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 相模川の治水機能の向上
- 市民が親しむ水辺環境の保全と整備
- 地域の福祉やコミュニティを支えるボランティア団体など各種団体の担い手不足の解消
- 地域の文化や歴史の次世代への継承
- マンション建設や宅地開発等により予測される児童・生徒数の増加への対応
- 商業施設の立地の誘導
- 本厚木駅周辺の更なる交流とにぎわいの創出
- 本厚木駅周辺の安全で快適な歩行区間や自転車走行空間の確保
- 通勤、通学時間帯における児童・生徒を含めた歩行者の安全確保
- 国道246号に接続する道路の混雑緩和

### 主な施策の方向

- 相模川では、自然災害に備えた計画的な治水事業の促進に取り組みます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 行政、関係団体、ボランティアなどが一体となって、高齢者や子育て世帯に対する地域での福祉活動に取り組むとともに、地域福祉を支えるボランティアをサポートする取組を推進します。

#### 2 地域福祉活動の推進

- 明治38(1905)年夏から語られている厚木音頭や、渡辺崋山が描いた「厚木六勝」が伝える崋山厚木来遊の歴史など、地域の文化や歴史を保存・継承するための取組を推進します。

#### 3 郷土文化の継承と発展

- 小学校の適正規模・適正配置の検討に取り組みます。

#### 4 安全な教育環境の整備

- 本厚木駅周辺の歩いて楽しいひと中心のまちづくりに取り組み、更なる交流とにぎわいの創出や、地域経済の活性化を図ります。

#### 5 にぎわい創出に向けた取組の推進

- 地区内の都市計画道路※の整備を推進するとともに、交通混雑の解消に向けた交差点の改良など、交通環境の向上に取り組みます。

#### 6 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進

- 相模川の豊かな自然環境の保全と利活用を図り、自然と調和の取れたまちづくりに取り組みます。

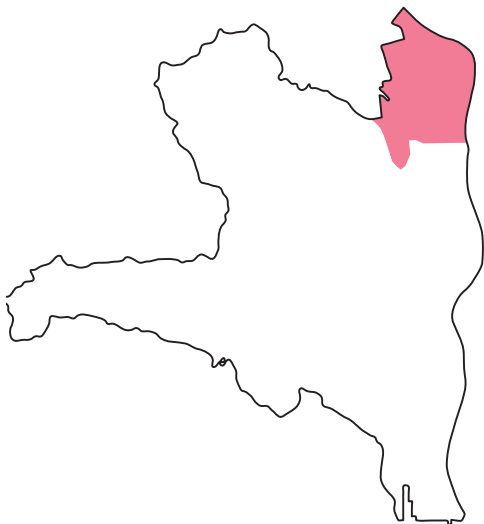
#### 7 良好な河川環境の保全

# 依知北地区

## ふれあい 宣言

北の玄関口である依知北地区は、素晴らしい自然環境の中、伝統と文化を継承するとともに、圏央道の開通により新たな地域の活性化を進めています。

私たちの地域では、人と人とのふれあいをモットーに誰もがいきいきと共に支えあい、未来に向け、心豊かに安全に安心して暮らせる地域づくりを目指します。





# 私 たちのまち 依知北

## 地区の特徴

- 依知北地区は、東に相模川、西に中津川が流れ、流域には一団の水田が広がり、水と緑の豊かな自然環境に恵まれています。
- 約1 km続く①下川入の桜並木は、春には桜がきれいで、お花見を楽しむことができます。
- 市指定天然記念物である②依知神社のイチョウや18世紀半ば頃の建立と伝えられる③妙伝寺の釈迦堂など、多くの社寺や記念物が点在している歴史の深い地区です。また、由来等の案内板を設置し、文化の伝承を図っています。
- ④あつぎ郷土博物館があり、本市の文化や歴史を伝える郷土文化の拠点として、市民を始め多くの方が訪れています。
- ⑤藤塚みどり公園では、「依知北ふれあい音頭」を中心に、住民相互の触れ合いを深め、地域への愛着心を高めるため、依知北地区住民が一堂に会する「依知北ふれあい夏まつり」が開催されています。
- ⑥猿ヶ島スポーツセンターや⑦下川入ターゲットバードゴルフ場などで、スポーツが活発に行われています。
- 外国籍の住民が多く、多文化共生の推進が図られています。

(都)座間荻野線

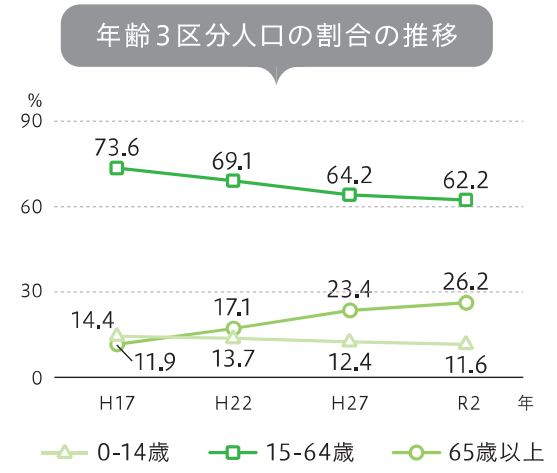
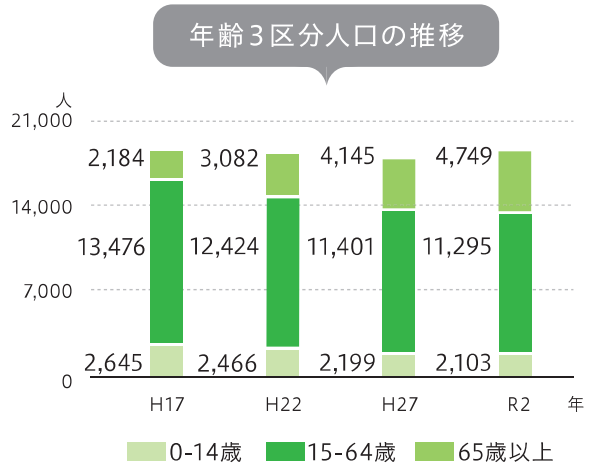


私 たちの目指すまちの姿

自然と歴史をいかし、新たな価値を生み出す  
 人々がふれあう、心豊かな安心・安全のまち 依知北

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 18,147人 （市全体の8.1%）  
 ■世帯数（令和2年10月） 8,671世帯 （市全体の8.2%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 1 依知北地区の人口は、18,147人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は11.6%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は62.2%、老年人口(65歳以上)の割合は26.2%となっています。
- 2 総人口は市内15地区中5番目に多く、年齢3区分別の割合は、市全体とほぼ同じ割合となっています。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 3 地区を南北に国道129号が通り、南に圏央道の厚木PAスマートインターチェンジ※が開通するなど、新たな交通結節点※となっています。
- 4 地区の北西部には、隣接する愛川町と一体的に整備された内陸工業団地があり、産業が集積しています。
- 5 住宅地と工業地が混在している地区が見られます。
- 6 地区の一部では、公共交通の利便性が低い地域があります。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 地域の防災力強化や防災機能を備えた公園整備
- 外国籍市民が地域社会の一員として共生していくためのコミュニケーション支援や仕組みづくり
- 地域の歴史や文化財の次世代への継承
- 厚木PAスマートインターチェンジ周辺への計画的な土地利用の誘導
- 路線バスサービスの確保や充実
- 路線バスサービスを補完する移動サービスの導入
- 国道129号沿道等への商業施設立地の誘導
- 通勤、通学時間帯における児童・生徒を含めた歩行者の安全確保

### 主な施策の方向

- 相模川、中津川の治水事業を促進するとともに、土砂災害の発生が想定される区域における防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 災害時の拠点となる防災機能を備えた公園の整備計画を推進します。

#### 2 緑豊かな公園緑地の整備

- 外国籍市民が地域社会の一員として共に暮らすことができるよう、地域住民と交流できる場の創出や、快適な生活を送るために必要な活動へのサポートに取り組みます。

#### 3 多文化共生の推進

- あつぎ郷土博物館では、郷土文化の拠点として、先人から受け継いだ本市の風土や歴史、文化、自然を後世に伝えるための活動を推進します。

#### 4 郷土文化の継承と発展

- 広域的な道路ネットワークをいかした土地利用を図り、新たな企業の立地促進と既存産業の活性化を図ります。

#### 5 地域に合った計画的な土地利用の推進

- 公共交通の利便性の低い地域や日常生活の移動に不便を感じている住民の移動の円滑化を図る取組の検討を進めます。

#### 6 移動しやすい公共交通環境の整備

- 道路などの基盤整備や都市計画道路\*沿道への生活利便施設の立地促進など、交通環境の向上と生活利便性を確保する取組を推進します。

#### 7 コンパクトなまちづくりの推進

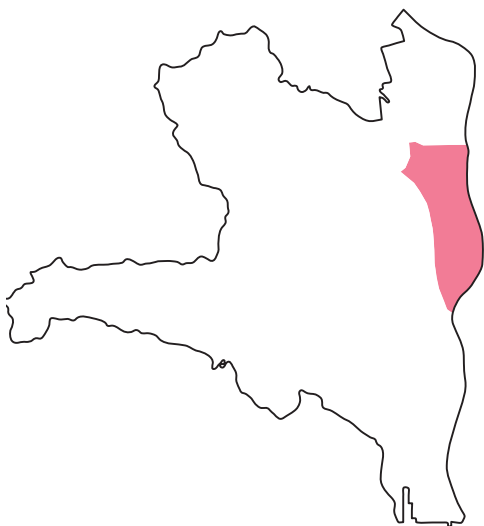
- 道路ネットワークの整備を促進することで、交通混雑の緩和を図るとともに、生活道路をう回路として通行する車両の抑制を図ります。

#### 8 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進

# 依知南地区

## ふれあい 宣言

水と緑に囲まれた自然豊かな依知南地区は、心と心の交流を大切にし、地域みんなで支え合うため、「地域の絆・心の輪をつなげよう・えち南」をスローガンとして掲げ、笑顔で安心して暮らせる地域づくりを目指します。



# 私 たちの まち 依 知 南

## 地区の特徴

- 依知南地区は、西に中津川、東に相模川が流れ、流域には一団の水田が広がり、水と緑の豊かな自然環境に恵まれています。
- ① 下依知フラワーパークには、夏はヒマワリが咲き、県外からも多くの方が観賞に訪れます。
- 中津川沿いでは、地域住民が絶滅危惧種の②カワラノギクの保存に努めています。
- 県指定重要文化財の銅鐘がある③<sup>どうしょう</sup>浅間神社などの社寺や、④<sup>あづまざか</sup>吾妻坂古墳を始めとする多くの史跡が点在しています。
- ⑤牛久保用水は鎌倉時代に作られたと考えられる用水路です。中津川の水を取り入れ、金田をコの字型で囲み、川の流れと逆方向の南から北へ流れて相模川に注いでいます。
- ⑥金田ゲートボール場は、公式規格のゲートボールコート10面を備えた市のゲートボールの殿堂であり、各種大会が開催されるなど、市民の健康増進に寄与しています。
- ⑦<sup>すいどう</sup>長坂南公園下隧道(トンネル)では、地域住民や小・中学校などが協力し、落書き消去・壁画制作活動を行っています。
- ⑧金田陸橋下では、地域住民が道路清掃作業を行い、児童の絵画を掲示するなど、環境美化啓発活動を行っています。



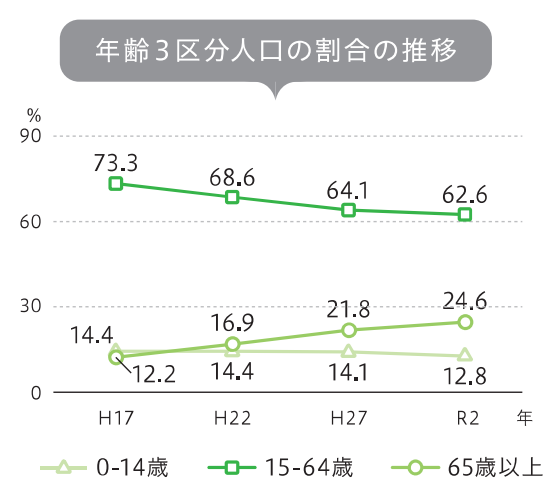
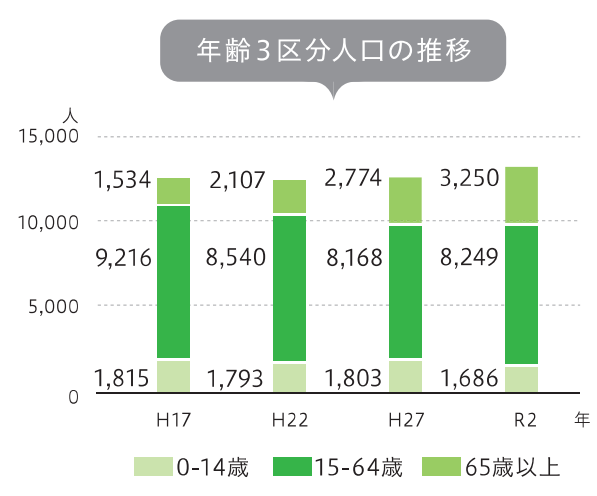


私 たちの目指すまちの姿

地域の絆・心の輪がつながり、笑顔で安心して暮らせる、  
水と緑に囲まれた自然豊かなまち 依知南

地区の概要・データ

- 人口（令和2年10月） 13,185人 （市全体の5.9%）
- 世帯数（令和2年10月） 6,265世帯 （市全体の5.9%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 依知南地区の人口は、13,185人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は12.8%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は62.6%、老年人口(65歳以上)の割合は24.6%となっています。  
年少人口の割合は市全体(12.0%)よりも高くなっています。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 地区の南北に国道129号が、東西に国道246号が通っており、また、圏央道の圏央厚木インターチェンジや厚木PAスマートインターチェンジ※、都市計画道路※座間荻野線があるなど、新たな交通結節点※となっています。
- 厚木秦野道路などの都市計画道路の整備が予定されています。
- 主要な幹線道路※が区内を通過しており、接続している道路を多くの車両が通行し、朝夕の通勤、通学時間帯は交通混雑が発生しています。
- 地区の一部では、公共交通の利便性が低い地域があります。
- 環境センターの北側に、災害時には災害廃棄物一時保管場所としての機能を備える市民の憩いの場となる緑地を併設した、新たなごみ中間処理施設※の整備が、厚木愛甲環境施設組合により進められています。



## 地区の皆さんが感じている課題

- 土砂災害警戒区域の安全対策
- 地域の福祉やコミュニティを支えるボランティア団体など各種団体の担い手不足の解消
- 外国籍市民が地域社会の一員として共生していくためのコミュニケーション支援や仕組みづくり
- 地域の歴史や文化財の次世代への継承
- 路線バスサービスの確保や充実
- 路線バスサービスを補完する移動サービスの導入
- 国道129号沿道等への商業施設立地の誘導
- 通勤、通学時間帯における児童・生徒を含めた歩行者の安全確保
- 増加が予想される空き家の活用や適正管理

### 主な施策の方向

- 相模川、中津川の治水事業を促進するとともに、土砂災害の発生が想定される区域における防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 行政、関係団体、ボランティアなどが一体となって、高齢者や子育て世帯に対する地域での福祉活動に取り組むとともに、地域福祉を支えるボランティアをサポートする取組を推進します。

#### 2 地域福祉活動の推進

- 外国籍市民が地域社会の一員として共に暮らすことができるよう、地域住民と交流できる場の創出や、快適な生活を送るために必要な活動へのサポートに取り組めます。

#### 3 多文化共生の推進

- 社寺や史跡などの古くから地域に残る文化財を保存・継承するための取組を推進します。

#### 4 郷土文化の継承と発展

- 公共交通の利便性の低い地域や日常生活の移動に不便を感じている住民の移動の円滑化を図る取組の検討を進めます。

#### 5 移動しやすい公共交通環境の整備

- 道路などの基盤整備や都市計画道路沿道への生活利便施設の立地促進など、交通環境の向上と生活利便性を確保する取組を推進します。

#### 6 コンパクトなまちづくりの推進

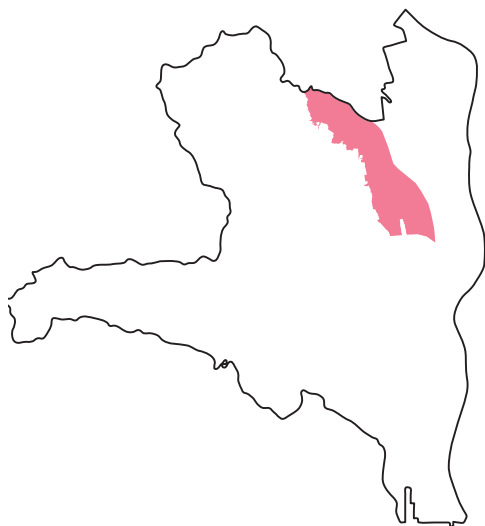
- 良好な住環境を保全するため、空き家の解消や活用に向けた取組を促進するとともに、新たな空き家化の予防を図ります。

#### 7 安全で快適な住環境の整備

# 睦合北地区

## ふれあい 宣言

睦合北地区は、中津川の清流と緑豊かな自然環境を愛しみ、郷土に育まれた伝統文化を未来へ引き継ぎ、住民が相互に連携、協働して、思いやりにあふれ、誰もが安心して、快適に生活できる地域づくりを推進します。



# 私 たち の ま ち 睦 合 北

## 地区の特徴

- 睦合北地区は、本市の北部に位置し、その北西には鳶尾山が控え、地区内を流れる中津川の流域に緑の多い風景が広がるなど、豊かな自然環境に恵まれています。
- ①三田せせらぎの小道が三田地域を東西に流れ、地元住民の散歩コースなど憩いの場となっています。
- 市指定有形文化財の本殿がある②八幡神社や、③清源院、④皇大神社など、歴史ある社寺が保存されています。
- 八幡神社では、3年に一度例大祭が行われ、多様なコミュニティが形成されています。
- 盆踊りやどんど焼きなどの伝統行事が各自治会で主催され、住民相互の触れ合いが図られています。
- 清流睦太鼓は、厚木らしさ創造推進事業により発足以来、市内や地区で交流を深めながら活躍しています。
- 地区内に設置されている⑤厚木アユ中間育成施設\*で生産されたアユは、「相模の鮎」として「かながわブランド」に登録されています。
- ⑥睦合北公民館内には、井上篤太郎\*の石碑があり、郷土が生んだ偉人の業績をたたえています。
- ⑦才戸の渡し跡には、中津川を船が行き来し、住民の足となっていた頃、渡し場として使われていたことを示す碑が残されています。

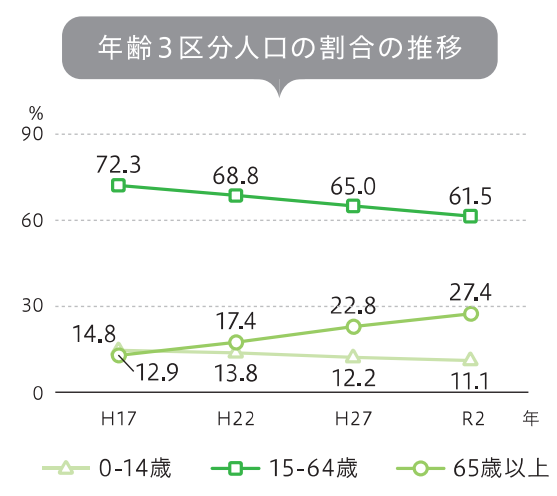
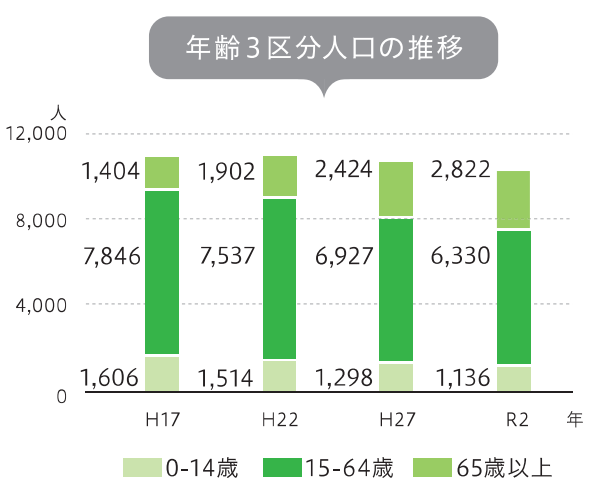


私 たちの目指すまちの姿

清流と緑を愛しみ、伝統を未来へつなぐ  
人々が協働し、思いやりにあふれるまち 睦合北

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 10,288人 （市全体の4.6%）  
■世帯数（令和2年10月） 4,788世帯 （市全体の4.5%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 睦合北地区の人口は、10,288人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は11.1%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は61.5%、老年人口(65歳以上)の割合は27.4%となっています。  
老年人口の割合は市全体(25.8%)よりも高くなっています。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 地区内には都市計画道路\*座間荻野線の整備が進められているほか、厚木秦野道路の整備が予定されています。
- 主要な幹線道路\*が地区内を通過しており、接続している道路を多くの車両が通行し、朝夕の通勤、通学時間帯は交通混雑が発生しています。
- 地区の一部では、公共交通の利便性が低い地域があります。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 中津川の治水機能の向上
- 地域の福祉やコミュニティを支えるボランティア団体など各種団体の担い手不足の解消
- 地域の伝統芸能や歴史の次世代への継承
- 三田児童館の老朽化に伴う再整備
- 道路ネットワークの整備による交通利便性の向上
- 路線バスサービスの確保や充実
- 路線バスサービスを補完する移動サービスの導入
- 通勤、通学時間帯における児童・生徒を含めた歩行者の安全確保
- 農業従事者の高齢化や後継者不足に伴う担い手の確保
- 農業収益の拡大

### 主な施策の方向

- 中津川の治水事業を促進するとともに、土砂災害の発生が想定される区域における防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 行政、関係団体、ボランティアなどが一体となって、高齢者や子育て世帯に対する地域での福祉活動等に取り組むとともに、地域福祉を支えるボランティアをサポートする取組を推進します。

#### 2 地域福祉活動の推進

- 17世紀の社殿である三田八幡神社本殿を始め、地域の伝統芸能や歴史を保存・継承するための取組を推進します。

#### 3 郷土文化の継承と発展

- 三田児童館の再整備に向け、検討を進めます。

#### 4 青少年の健全育成に向けた取組の推進

- 交通環境の向上を図るため、道路などの基盤整備に取り組むほか、公共交通の利便性の低い地域や日常生活の移動に不便を感じている市民の移動の円滑化を図る取組の検討を進めます。

#### 5 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進、移動しやすい公共交通環境の整備

- 道路ネットワークの整備を促進することで交通混雑の緩和を図るとともに、生活道路をう回路として通行する車両の抑制を図ります。

#### 6 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進

- 農業の担い手の確保や営農環境の維持・向上等に向け、関係団体等と協働して取り組みます。

#### 7 農地有効利用の推進

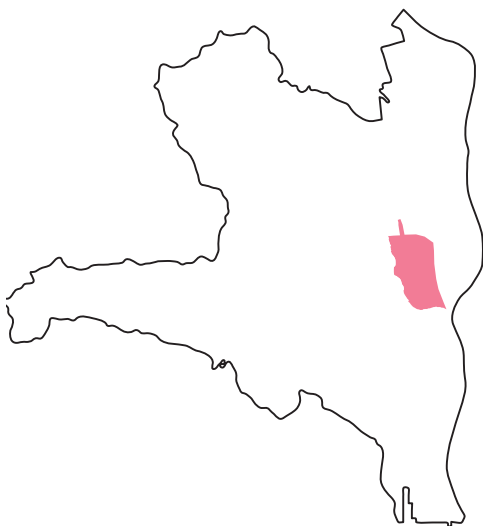
# 睦合南地区

ふれあい

宣言

睦合南地区は多くの河川を有した豊かな自然環境の中にあり、そこで生活する人々も心の豊かさを育みながら、より安心・安全な地区づくりに取り組んでいます。

人と人との絆を重んじ、みんなが生きがいを持って暮らせる地区を目指します。





# 私 たちのまち 睦合南

## 地区の特徴

- 睦合南地区は、本市の東部に位置し、地区内を①中津川、②小鮎川及び③荻野川が流れ、河川に親しむ環境に恵まれています。
- 中津川(右岸)沿いでは、地域住民による河川敷の美化活動に合わせ、絶滅危惧種カワラノギクの再生に取り組んでいます。
- 小鮎川(左岸)沿いや荻野川では、堤防に桜や彼岸花など花を楽しむスポットがあり、川沿いの広場は住民の触れ合いの場となっています。
- 地区内の公園や道路の花壇を活用して「緑をつくり、まもり、育てる」活動を推進しています。
- ④妻田薬師へんしょういん(遍照院)には、市指定有形文化財である薬師堂や木造薬師如来坐像もくぞうやくしにょらいざぞうがあるほか、県指定天然記念物であるクスノキなど、多くの文化財が保存されています。
- 妻田薬師、⑤妻田神社ではそれぞれ地域を挙げた行事が行われ、多様なコミュニティが形成されています。
- 盆踊りやどんど焼きなどの伝統行事が各自治会で主催され、住民相互の触れ合いが図られています。また、⑥睦合南公民館を中心に、「睦合南ハロウィン」を地区の名物行事にする取組が行われています。
- 地域と子どもたちが一体となって安心・安全に取り組み、⑦清水小学校、⑧妻田小学校、睦合東中学校がインターナショナルセーフスクールの認証※を取得しています。
- 地区として青色回転灯搭載車を28台有しており、地域のパトロールを実施するなど、防犯や交通安全などの安心・安全な活動が充実しています。

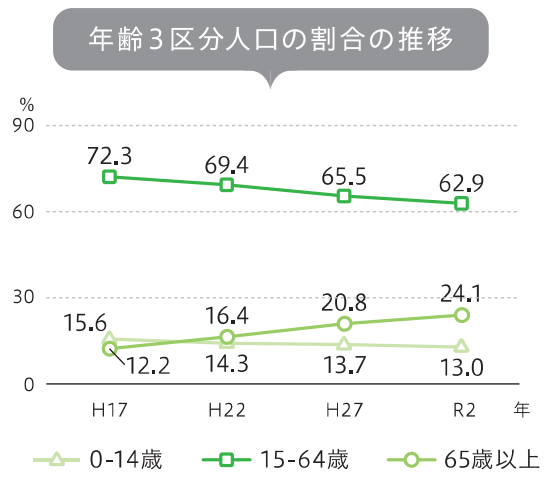
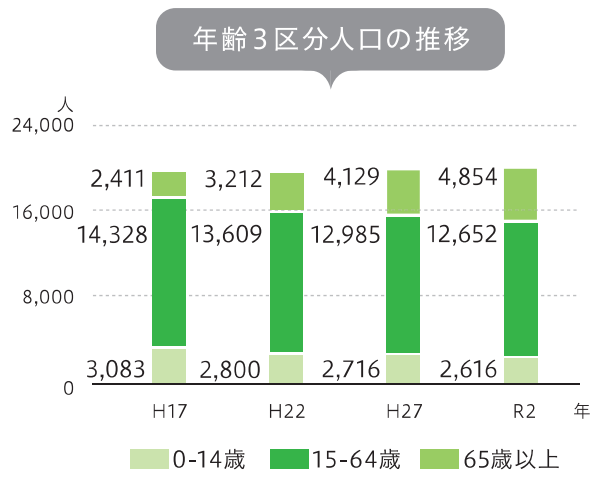


私 たちの目指すまちの姿

豊かな河川環境の中、人と人との絆を大切にし、  
みんなが生きがいを持って暮らせるまち 睦合南

地区の概要・データ

- 人口（令和2年10月） 20,122人 （市全体の9.0%）
- 世帯数（令和2年10月） 9,194世帯 （市全体の8.7%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 睦合南地区の人口は、20,122人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は13.0%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は62.9%、老年人口(65歳以上)の割合は24.1%となっています。  
年少人口は、市内15地区の中で3番目に高い割合です。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 土地区画整理事業により計画的な都市基盤の整備が進められた地区以外は、住宅地と工業地の混在や、住宅の密集が見られます。
- 国道246号を始めとした複数の幹線道路\*が地区内を通過しており、これらの主要な道路に接続している道路を多くの車両が通行し、交通量が非常に多いため、朝夕の通勤、通学時間帯は交通混雑が発生しています。
- 小鮎川沿いの市街地などでは、狭あい道路が比較的多く見られます。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 中津川、小鮎川及び荻野川の治水機能の向上
- 地域コミュニティの活性化
- 睦合南公民館の老朽化に伴う再整備
- 幹線道路に接続している道路の混雑緩和
- 通勤、通学時間帯における児童・生徒を含めた歩行者の安全確保
- 地域の防災拠点としての役割を担う公園の整備
- 市民の憩いや活動の場としての良好な水辺の環境づくり
- 河川内に繁茂している不要な樹木の適切管理
- 河川周辺への不法投棄の防止

### 主な施策の方向

- 中津川、小鮎川及び荻野川では、自然災害に備えた計画的な治水事業の促進に取り組みます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 地域コミュニティづくりの核となる睦合南公民館について、再整備の方向性を検討します。

#### 2 地域主体で取り組む社会教育\*の振興

- 高規格幹線道路\*等へのアクセス性を高める道路整備を推進し、交通混雑の緩和や他地域への移動の円滑化に取り組むほか、歩行者の安全に配慮した道路整備を推進します。

#### 3 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進

- 中津川、小鮎川及び荻野川の河川環境の保全と利活用を図り、生物多様性\*が保全され、自然と調和の取れたまちづくりに取り組みます。

#### 4 多様な自然環境・生物多様性の保全と活用

- ごみや廃棄物の不法投棄、不適切処理を防止する取組を推進します。

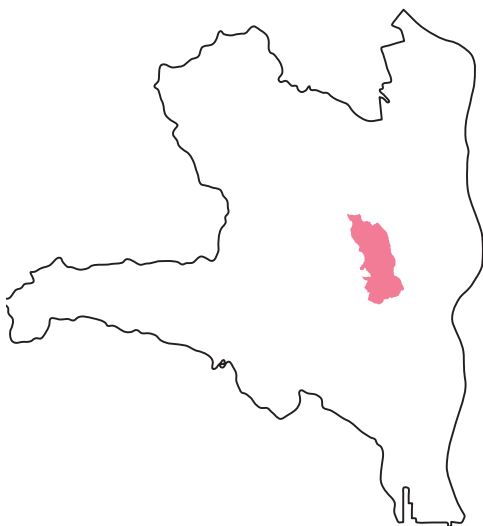
#### 5 環境美化の推進

# 睦合西地区

## ふれあい 宣言

豊かな自然環境と快適な住環境が調和する睦合西地区。

ここに住む私たちは、思いやりと絆を大切に、次の世代が安心して暮らせる、夢のある明るく住みよい地域づくりを目指します。



# 私 たちのまち 睦合西

## 地区の特徴

- 睦合西地区は、本市のほぼ中央に位置し、地区内を流れる①小鮎川、②荻野川の流域に緑豊かな風景が広がるなど、豊かな自然環境に恵まれています。
- 桜の季節になると、地域団体によって③<sup>りんさいぼし</sup>林妻橋付近の桜並木がライトアップされ、夜桜を楽しめる名所になっています。
- 小鮎川沿いと荻野川沿いでは、多くの方が自然に親しみながらウォーキングを楽しんでいます。
- ④睦合西公民館には、花のボランティアが作ったハーブガーデンがあり、ラベンダーが楽しめます。また、ハーブを使った講座や花の種の配布を通じて、地域の活性化を図っています。
- ⑤山ノ上古墳や⑥<sup>はちまん</sup>八幡神社、市指定天然記念物のカゴノキがある⑦林神社などの多くの文化財が保存されています。
- 相模人形芝居林座や厚木東高等学校人形浄瑠璃部、あつぎひがし座があり、地域に根差した郷土芸能の継承活動が行われています。
- ⑧及川球技場は、スポーツ団体だけでなく、ジョギングやウォーキングの場としても、年間を通じて多くの方が活用しています。
- 荻野川にかかる⑨十二天橋の下流右岸には、護岸のかさ上げをして台風や大雨の際の越水・浸水等の対策が講じられたこともあり、地域住民の風水害に対する防災意識が高くなっています。

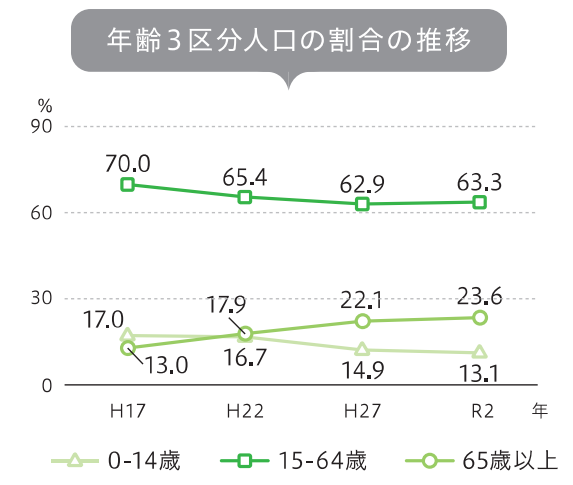
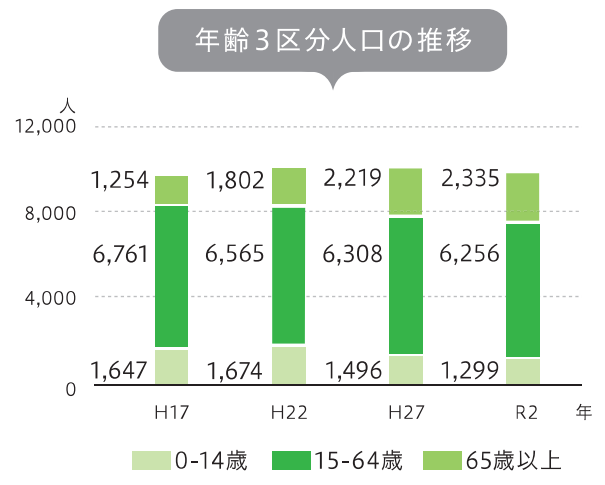


私 たちの目指すまちの姿

豊かな自然環境と快適な住環境が調和する  
夢のある明るく住みよいまち 睦合西

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 9,890人 （市全体の4.4%）  
 ■世帯数（令和2年10月） 4,440世帯 （市全体の4.2%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 睦合西地区の人口は、9,890人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は13.1%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は63.3%、老年人口(65歳以上)の割合は23.6%となっています。  
 年少人口は、市内15地区の中で2番目に高い割合です。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 厚木秦野道路の整備が予定されています。
- 国道412号が地区内を通過しており、接続している道路を多くの車両が通行し、朝夕の通勤、通学時間帯は交通混雑が発生しています。  
 小鮎川沿いの市街地などでは、狭あい道路が比較的多く見られます。
- 国道412号沿いは、日常生活に関わる商業施設等の立地が進んでいます。



## 地区の皆さんが感じている課題

- 小鮎川、荻野川の治水機能の向上
- 買物等の日常生活や健康などに対する高齢者の不安の解消
- 地域の歴史や文化財の次世代への継承
- 路線バスサービスを補完する移動サービスの導入
- 通勤、通学時間帯における児童・生徒を含めた歩行者の安全確保
- 交通混雑の緩和などの交通環境の整備
- 増加が予想される空き家の活用や適正管理
- 良好な住環境の維持・形成
- 転入と定住を促す取組
- 農業従事者の高齢化や後継者不足に伴う担い手の確保
- 農業収益の拡大

### 主な施策の方向

- 小鮎川、荻野川の治水事業を促進するとともに、土砂災害の発生が想定される区域における防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 高齢者が地域で生きがいを持って安心して生活できるよう、地域包括支援センター※を中心に、地域全体で支える体制の充実を図ります。

#### 2 包括的な支援体制の充実

- 国指定重要無形民俗文化財である相模人形芝居林座を始め、地域の伝統芸能や歴史を保存・継承するための取組を推進します。

#### 3 郷土文化の継承と発展

- 河川環境をいかした公園の整備計画を推進します。

#### 4 親しみやすい河川環境の整備

- 交通環境の向上を図るため、公共交通の利便性の低い地域や日常生活の移動に不便を感じている市民の移動の円滑化を図る取組の検討を進めます。

#### 5 移動しやすい公共交通環境の整備

- 高規格幹線道路※等へのアクセス性を高める道路整備を推進し、他地域への移動の円滑化に取り組みとともに、交通混雑の緩和や歩行者の安全を確保する道路基盤整備に取り組みます。

#### 6 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進

- 良好な住環境を保全するため、空き家の解消や活用に向けた取組を促進するとともに、新たな空き家化の予防を図ります。

#### 7 安全で快適な住環境の整備

- 河川沿いの豊かな自然環境や良好な住環境など、地区が持つ魅力を発信し、定住促進を図ります。

#### 8 シティプロモーション※の推進、定住促進に向けた取組の推進

- 農業の担い手の確保や営農環境の維持・向上等に向け、関係団体等と協働して取り組みます。

#### 9 農地有効利用の推進

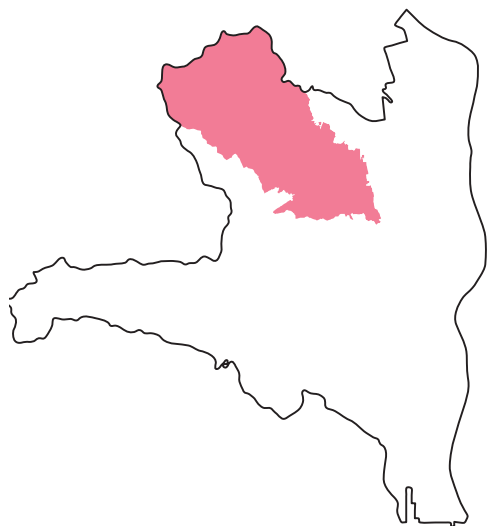
# 荻野地区

ふれあい

宣言

荻野地区では、豊かな自然と共生するまちづくりと人と人とのふれあいを大切に、健康で活気あふれる地域づくりを進めていきます。

さらに、地域の文化や歴史、史跡を継承する取組も推進します。



# 私 たちの ま ち 荻 野

## 地区の特徴

- 荻野地区は、本市の北西部に位置し、<sup>たんざわさんろく</sup>丹沢山麓の樹林や荻野川などの河川に囲まれるなど、豊かな自然環境に恵まれています。
- ① 鳶尾山にはハイキングコースがあり、鳶尾山展望台からは厚木市街や相模湾も望め、子ども連れの家族を始め、多くの方が訪れています。
- 豊かな自然環境を背景に、② ホテルの里を守る取組や鳶尾山に桜を植える事業など、自然を後世に残す活動が盛んに実施されています。
- ③ <sup>おぎのやまなかはんじんやあと</sup>荻野山中藩陣屋跡や④ 荻野神社などの史跡や神社が点在するほか、大山街道の宿場町として栄えた⑤ <sup>おぎのしんしゆく</sup>荻野新宿などの名所が残されています。
- 明治24(1891)年に建設され、市指定有形文化財として保存されている⑥ 古民家岸邸では、ひな祭りや端午の節句、七夕などのイベントが開催され、市内外からの多くの方でにぎわいます。
- 広い芝生広場や楽しい遊具、通年利用できる室内プールも完備している⑦ 荻野運動公園を始め、⑧ あつぎこどもの森公園や⑨ 広町公園など、公園施設が充実しています。
- 夏祭りや運動会などで「荻野音頭」がよく踊られ、住民の連帯感を深めています。

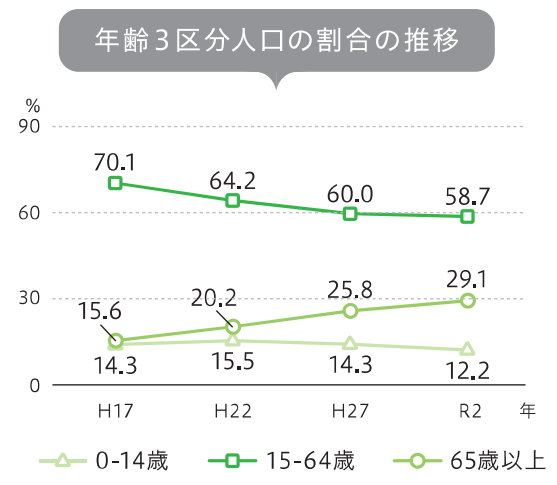
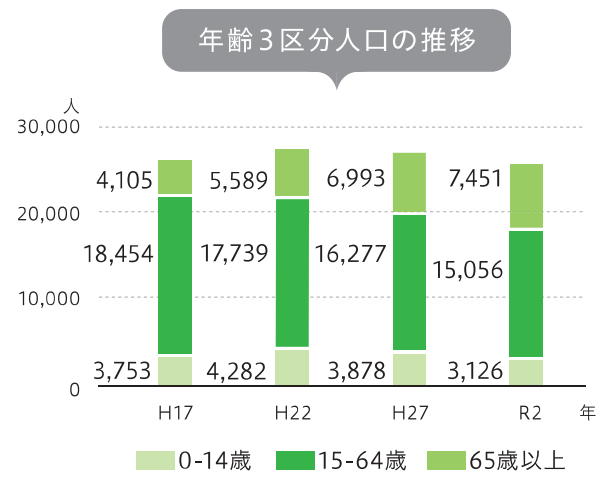


私 たちの目指すまちの姿

人と人とのふれあいを大切に、豊かな自然と共生する  
健康で活気あふれるまち 荻野

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 25,633人 （市全体の11.5%）  
■世帯数（令和2年10月） 11,290世帯 （市全体の10.7%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 1 荻野地区の人口は、25,633人となっています。年少人口（15歳未満）の割合は12.2%、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は58.7%、老年人口（65歳以上）の割合は29.1%となっています。  
市内15地区中2番目に人口が多く、年少人口及び老年人口の割合は市全体（12.0%及び25.8%）よりも高くなっています。[住民基本台帳に基づく人口（令和2年10月1日現在）]
- 2 南北約7kmという地形を縦断する形で、地区の基幹軸である国道412号が通過しています。
- 3 荻野川周辺の既存市街地のほか、計画的に整備された大規模住宅地が形成されています。
- 4 高齢化や核家族化の進行などを背景に、一人暮らしの高齢者が増加しています。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 土砂災害警戒区域の安全対策
- 良好な住環境の維持・形成
- 買物等の日常生活や健康などに対する高齢者の不安の解消
- 転入と定住を促す取組
- 地域の文化や歴史の次世代への継承
- 増加が予想される空き家の活用や適正管理
- 交通混雑の緩和や歩道整備などの交通環境の改善
- 農業従事者の高齢化や後継者不足に伴う担い手の確保
- 路線バスサービスの確保や充実
- 農業収益の拡大
- 路線バスサービスを補完する移動サービスの導入
- 有害鳥獣による農作物被害やヤマビル被害への対策

### 主な施策の方向

- 荻野川の治水事業を促進するとともに、土砂災害の発生が想定される区域における防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 高齢者が地域で生きがいを持って安心して生活できるよう、地域包括支援センター※を中心に、地域全体で支える体制の充実を図ります。

#### 2 包括的な支援体制の充実

- 荻野山中藩陣屋跡を始めとした、地域の歴史や文化財を保存・継承するための取組を推進します。

#### 3 郷土文化の継承と発展

- 交通環境の向上を図るため、道路などの基盤整備に取り組むほか、公共交通の利便性の低い地域や日常生活の移動に不便を感じている市民の移動の円滑化を図ります。

#### 4 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進、移動しやすい公共交通環境の整備

- 豊かな自然環境に恵まれた穏やかな住環境など、地区が持つ魅力の情報発信等に取り組み、定住促進を図ります。

#### 5 シティプロモーション※の推進、定住促進に向けた取組の推進

- 良好な住環境を保全するため、空き家の解消や活用に向けた取組を促進するとともに、新たな空き家化の予防を図ります。

#### 6 安全で快適な住環境の整備

- 農業の担い手の確保や営農環境の維持・向上等に向け、関係団体等と協働して取り組みます。

#### 7 農地有効利用の推進

- 地域と協働して、有害鳥獣の対策やヤマビルの生息しにくい環境整備に取り組みます。

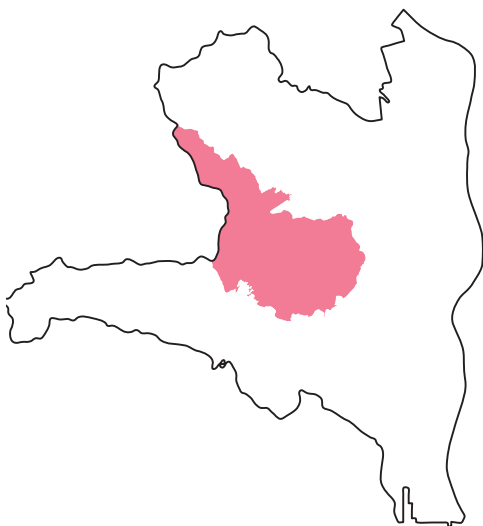
#### 8 鳥獣被害対策の強化

# 小鮎地区

ふ れ あ い

宣 言

自然豊かで文化が息づく  
小鮎地区に住む私たちは、  
先人が培った英知と助け合  
う精神を引き継ぎ、「小鮎  
からつなげようみんなの絆」  
を合言葉に心豊かな地域づ  
くりを進めることを宣言し  
ます。





# 私 たち の ま ち 小 鮎

## 地区の特徴

- 小鮎地区は、①小鮎川に沿った丘陵地や<sup>あまでらはら</sup>尼寺原台地から成り、周辺には広大な森林地域が広がっています。
- 3、4月の「桜まつり」や6月の「あやめ祭り」、11月の「秋の花まつり」を始めとする季節の催しには、多くの方が訪れています。
- ②上古沢緑地や③飯山白山森林公園、④飯山温泉郷は、市内外から訪れる人も多く、癒しの里としての特徴があります。
- 小鮎川の周辺では、桜やアジサイを楽しみながら散歩ができ、野鳥観察も楽しむことができます。

- <sup>くりやばし</sup>⑤栗矢橋付近では、毎年「小鮎川リバーフェスタ」が開催され、小鮎の自然に親しみながら、多世代交流・親子の触れ合いが図られています。

- ⑥里見台まる山公園は、春は桜がきれいで、お花見を楽しむことができます。

- <sup>ちょうくじ</sup>⑦長谷寺や⑧龍蔵神社などの社寺も多く、歴史の豊かさを感じることができます。

- 白龍伝説を題材にした飯山白龍太鼓や白龍の舞があり、地区内外で活発な活動を行っています。

- 各団体が協力し夏祭りを開催し、地域の交流・触れ合いが図られています。

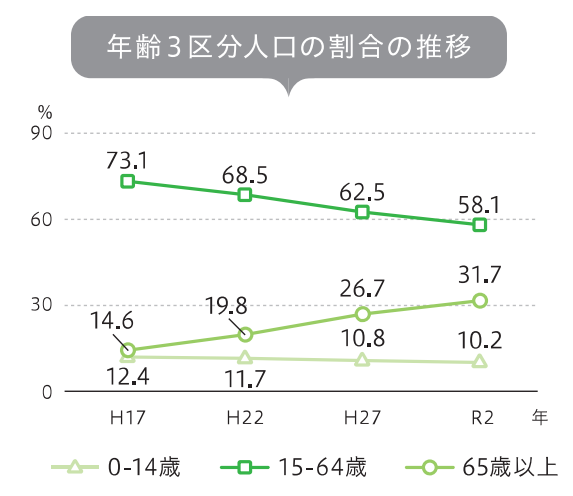
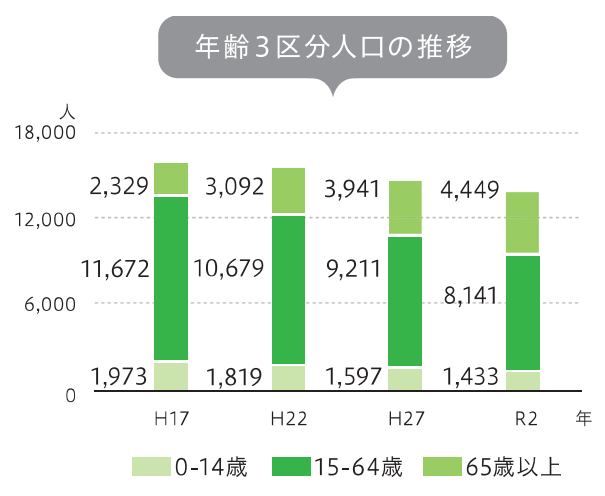


私 たちの目指すまちの姿

丹沢の豊かな恵みにあふれ、先人の教えを引き継ぎ、  
人々が助け合う心豊かなまち 小鮎

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 14,023人 （市全体の6.3%）  
■世帯数（令和2年10月） 6,399世帯 （市全体の6.1%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 小鮎地区の人口は、14,023人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は10.2%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は58.1%、老年人口(65歳以上)の割合は31.7%となっています。  
老年人口の割合は市全体(25.8%)よりも高くなっています。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 都市計画道路※厚木環状3号線の整備が進められているほか、厚木秦野道路などの整備が予定されています。
- 森の里東土地区画整理事業が実施され、企業誘致が進められています。
- 地区は、住宅地区、工場や流通企業などの産業地、農地、そして観光地に分かれています。
- 小・中学生の登校時の見守り活動などが熱心に行われています。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 地域の福祉やコミュニティを支えるボランティア団体など各種団体の担い手不足の解消
- 買物等の日常生活や健康などに対する高齢者の不安の解消
- 地域の芸能や文化の発展
- 通勤、通学時間帯における児童・生徒の安全確保
- (仮称)厚木北インターチェンジ周辺の計画的な土地利用
- 交通アクセスの利便性向上をいかした観光客の更なる誘致
- 路線バスサービスの確保や充実
- 路線バスサービスを補完する移動サービスの導入
- 有害鳥獣による農作物被害やヤマビル被害への対策
- 小鮎川周辺や雑木林などへの不法投棄の防止
- ごみ集積所への不適正排出の防止

### 主な施策の方向

- 小鮎川、恩曾川の治水事業を促進するとともに、土砂災害の発生が想定される区域における防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 行政、関係団体、ボランティアなどが一体となって、高齢者や子育て世帯に対する地域での福祉活動に取り組むとともに、地域福祉を支えるボランティアをサポートする取組を推進します。

#### 2 地域福祉活動の推進

- 高齢者が地域で生きがいを持って生活できるよう、地域包括支援センター\*を中心に地域全体で支える体制の充実を図ります。

#### 3 包括的な支援体制の充実

- 地域で育んできた飯山白龍太鼓や白龍の舞など、地域に根付いた芸能や郷土文化、歴史を保存・継承するための取組を推進します。

#### 4 郷土文化の継承と発展

- 児童・生徒が安全に登下校できるよう、通学路の安全確保に取り組めます。

#### 5 交通安全対策の強化

- 広域的な道路ネットワークを活用した地域産業の活性化を促進します。

#### 6 企業誘致の促進

- 豊かな自然をいかした森林散策などの取組や、地域の魅力である温泉資源を活用し、観光振興を図ります。

#### 7 観光資源の磨き上げの推進

- 公共交通の利便性の低い地域や日常生活の移動に不便を感じている市民の移動の円滑化を図る取組の検討を進めます。

#### 8 移動しやすい公共交通環境の整備

- 地域と協働して、有害鳥獣の対策やヤマビルの生息しにくい環境整備に取り組めます。

#### 9 鳥獣被害対策の強化

- ごみや廃棄物の不法投棄、不適切処理を防止する取組を推進します。

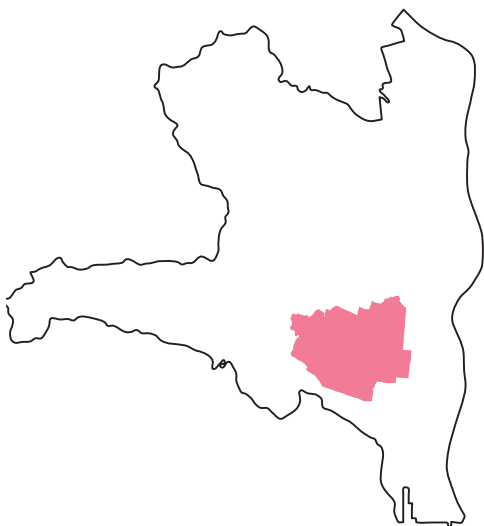
#### 10 環境美化の推進

# 南毛利地区

## ふれあい 宣言

南毛利地区は、毛利氏縁の地名が示す歴史と豊かな自然の中で、誰もが安心して安全に暮らせる地域づくりを進めています。

これからも、子どもの健やかな成長を地域全体で見守りながら、幅広い地域活動を通して、お互い顔の見える地域づくりを進めます。



# 私 たちの まち 南 毛 利

## 地区の特徴

- 南毛利地区は、①玉川と②恩曾川に沿って農地が広がり、③高松山などの豊かな自然環境に恵まれています。
- 地区の中心に恩曾川が流れており、④高坪橋親水広場たかつぼししんすいや⑤地藏橋親水広場じぞうぼししんすい、⑥健康・交流のみちが整備され、地域の憩いの場となっています。
- 恩曾川では、地域のボランティア団体が鯉のぼりを泳がせたり、通年に渡って河川の清掃を行ったりするなど、地域住民に触れ合い・交流する場が提供されています。
- 相模人形芝居長谷座や長谷ささら踊り盆唄保存会があり、郷土に残る伝統芸能が大切に受け継がれています。
- ⑦東京農業大学農学部東京農業大学農学部の指導・助言の下で行われる環境学習では、地区の小学生が地元を流れる恩曾川に触れることを通じて、地元への愛着心を育てています。
- ⑧ぼうさいの丘公園は災害時に避難・滞在することができる防災公園で、地域のみならず、厚木市の防災拠点として機能しています。また、日頃は多くの方に利用され、様々なイベントなどが開催されています。
- ⑨南毛利公民館と⑩南毛利スポーツセンターが隣接しており、その利点をいかしながら「スポーツ祭」や「公民館まつり」、「シニアフェスティバル」などが開催され、多くの方でにぎわっています。
- ⑪夢未市では、地域の生産者が育てた地場農産物が販売されており、多くの方に利用されています。
- 35の自治会と45人の民生委員・児童委員は、いずれも市内で最大の規模になっています。多くの団体組織が連携を図りながら、地域のために活動を行っています。



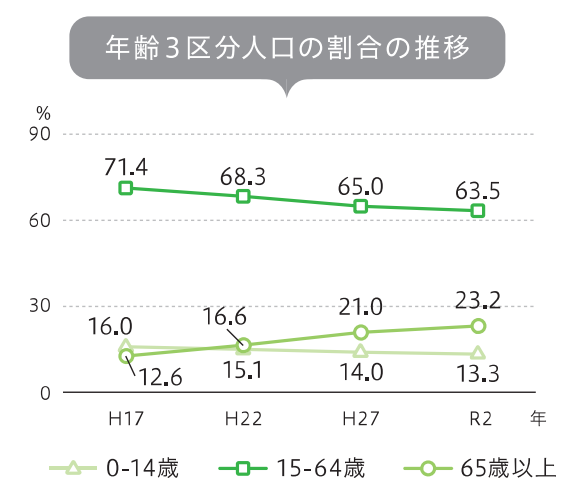
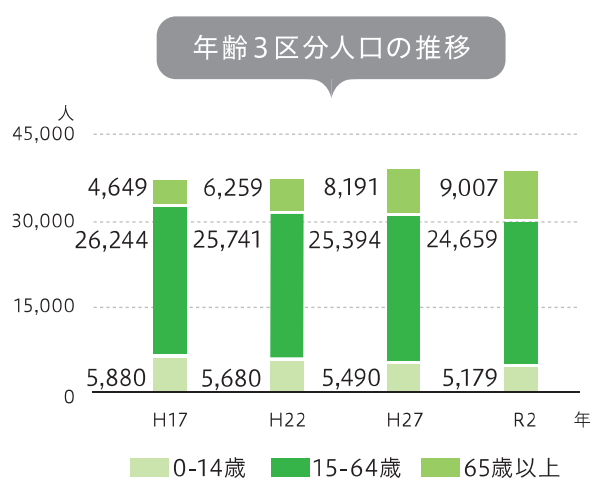


私 たちの目指すまちの姿

豊かな自然の中で、世代を超えて共に支え合う、  
地域の温かさを感じる安心で安全なまち 南毛利

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 38,845人 （市全体の17.4%）  
■世帯数（令和2年10月） 17,688世帯 （市全体の16.7%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 南毛利地区の人口は、38,845人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は13.3%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は63.5%、老年人口(65歳以上)の割合は23.2%となっています。  
市内15地区中、最も人口が多く、年少人口の割合も市内で最も高くなっています。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 都市計画道路※厚木環状3号線の整備が進められています。
- 主要な幹線道路※が地区内を通過しており、接続している道路を多くの車両が通行し、朝夕の通勤、通学時間帯は交通混雑が発生しています。
- 地区の一部では、公共交通の利便性が低い地域があります。
- 毛利台地区など比較的早い時期に開発により整備された住宅地では、良好な住環境を形成していますが、少子高齢化が進んでいます。



## 地区の皆さんが感じている課題

- 地域の福祉やコミュニティを支えるボランティア団体など各種団体の担い手不足の解消
- 買物等の日常生活や健康などに対する高齢者の不安の解消
- 地域の伝統芸能や歴史の次世代への継承
- 地域全体で子どもを守り育てるための取組
- 道路ネットワークの整備による交通利便性の向上
- 通勤、通学時間帯における児童・生徒を含めた歩行者の安全確保
- 路線バスサービスの確保や充実
- 路線バスサービスを補完する移動サービスの導入

### 主な施策の方向

- 玉川、恩曾川の治水事業を促進するとともに、土砂災害の発生が想定される区域における防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 行政、関係団体、ボランティアなどが一体となって、高齢者や子育て世帯に対する地域での福祉活動に取り組むとともに、地域福祉を支えるボランティアをサポートする取組を推進します。

#### 2 地域福祉活動の推進

- 高齢者が地域で生きがいを持って安心して生活できるよう、地域包括支援センター※を中心に、地域全体で支える体制の充実を図ります。

#### 3 包括的な支援体制の充実

- 国指定重要無形民俗文化財である相模人形芝居長谷座やささら踊り盆唄による「ささら踊り」など、古くから地域に残る伝統芸能や歴史を保存・継承するための取組を推進します。

#### 4 郷土文化の継承と発展

- 地域全体で青少年の健全な育成を図るため、関係団体の活動の支援や子どもの居場所づくりを推進します。

#### 5 青少年の健全育成に向けた取組の推進

- 交通環境の向上を図るため、道路などの基盤整備に取り組むほか、公共交通の利便性の低い地域や日常生活の移動に不便を感じている市民の移動の円滑化を図る取組の検討を進めます。

#### 6 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進、移動しやすい公共交通環境の整備

# 南毛利南地区

## ふれあい 宣言

大山を仰ぎ、川蝉が舞う  
玉川、西の玄関口愛甲石田  
駅を中心に広がる住宅街、  
脈々と受け継がれた歴史と  
文化、先人が培った環境に  
住み共に生きる私たちは、  
世代を超えたふれあいと絆  
で将来に誇れる南毛利南を  
つくしましょう。



# 私 たちの まち 南 毛利 南

## 地区の特徴

- 南毛利南地区は、①愛甲石田駅を中心とした商店街や住宅が立ち並ぶ都市環境と②玉川沿いに広がる農地などの豊かな自然環境を併せ持っています。
- 玉川沿いは四季折々の田園風景を楽しみながら散策ができ、野鳥観察も楽しむことができます。
- 愛甲三郎季隆<sup>あいこうさぶろうすえたか</sup>※の伝承や愛甲ささら踊り盆唄保存会による「ささら踊り」などの郷土芸能が残され、歴史と文化が大切にされています。
- ③地頭山古墳<sup>じとうやま</sup>は、県内でも有数の規模を誇る前方後円墳と考えられています。
- 市域における主要な古道の一つである④矢倉沢往還<sup>やぐらさわおうかん</sup>が、地区の一部を通過しています。江戸時代には大山参りの旅行者や参詣者相手の商店でにぎわっていました。
- 関東地方の在銘最古級の石灯籠<sup>いしどうろう</sup>が奉納されている⑤熊野神社や愛甲三郎季隆の墓碑と伝わる五輪塔のある⑥宝積寺<sup>ほうしやくじ</sup>など、歴史ある社寺が保存されています。
- ⑦愛甲石田駅南口商店街では、夏の風物詩「愛甲三郎納涼祭り」が毎年開催され、多くの方でにぎわっています。
- ⑧愛甲小学校では、厚木市名誉市民で農文学者でもある和田傳氏<sup>わだでん</sup>が作詞した校歌が歌われています。
- ⑨ハイウェイパークあつぎは、東名高速道路を挟むようにつくられた遊歩道スタイルの公園です。バスケットゴールもあり、運動を楽しむ方々に親しまれています。

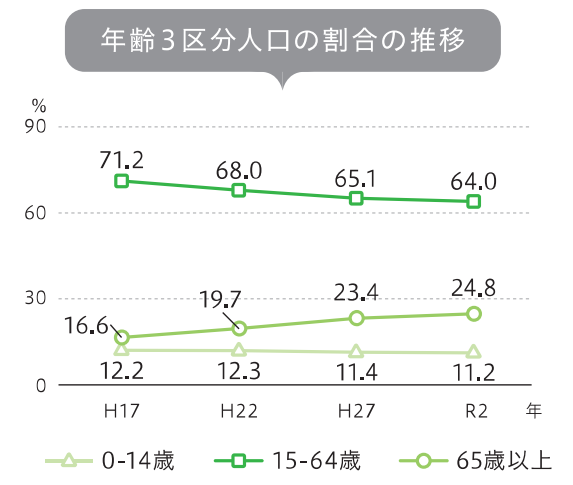
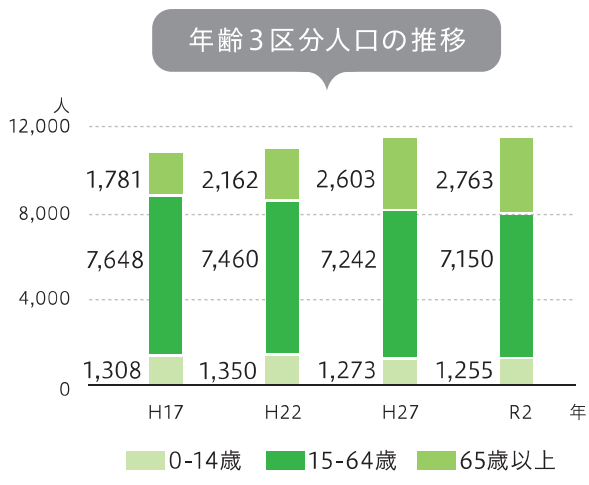


私 たちの目指すまちの姿

脈々と受け継がれた歴史と文化の中、  
世代を超えたふれあいと絆のあるまち 南毛利南

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 11,168人 （市全体の5.0%）  
■世帯数（令和2年10月） 5,576世帯 （市全体の5.3%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 南毛利南地区の人口は、11,168人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は11.2%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は64.0%、老年人口(65歳以上)の割合は24.8%となっています。  
老年人口の割合は市全体(25.8%)よりも低く、生産年齢人口の割合は、市内で3番目に高くなっています。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 愛甲石田駅は、通勤や通学などの交通の拠点となっており、乗降人員は年々増加しています。
- 国道246号が地区内を通過しており、接続している道路を多くの車両が通行し、愛甲石田駅周辺を始め、朝夕の通勤、通学時間帯は交通混雑が発生しています。
- 地区の一部の住宅地では、狭あい道路が見られます。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 玉川の治水機能の向上
- 地域の歴史や文化の次世代への継承
- 愛甲石田駅の利用者や周辺道路の交通量の増加への対応
- 愛甲石田駅周辺の利便性向上、安心・安全な住環境の確保
- 路線バスサービスの確保や充実
- 通勤、通学時間帯における児童・生徒を含めた歩行者の安全確保
- 増加が予想される空き家の活用や適正管理

### 主な施策の方向

- 玉川の治水事業を促進するとともに、土砂災害の発生が想定される区域における防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 愛甲三郎季隆の伝承や愛甲ささら踊り盆唄保存会による「ささら踊り」など、古くから地域に残る郷土文化や歴史を保存・継承するための取組を推進します。

#### 2 郷土文化の継承と発展

- 愛甲石田駅やインターチェンジなどの立地的優位性をいかした、南部産業拠点の形成に向けた取組を推進します。

#### 3 新たな産業拠点の整備

- 魅力ある都市空間の形成のため、愛甲石田駅周辺の整備に向けた取組を推進するとともに、駅周辺の交通環境の改善を図ります。

#### 4 中心市街地等の都市機能の向上

- 交通環境の向上を図るため、道路などの基盤整備に取り組むほか、路線バスの輸送力等を強化し、住民の快適な移動環境の向上に取り組みます。

#### 5 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進、移動しやすい公共交通環境の整備

- 良好な住環境を保全するため、空き家の解消や活用に向けた取組を促進するとともに、新たな空き家化の予防を図ります。

#### 6 安全で快適な住環境の整備

# 玉川地区

ふ れ あ い

宣 言

たんざわさんろく

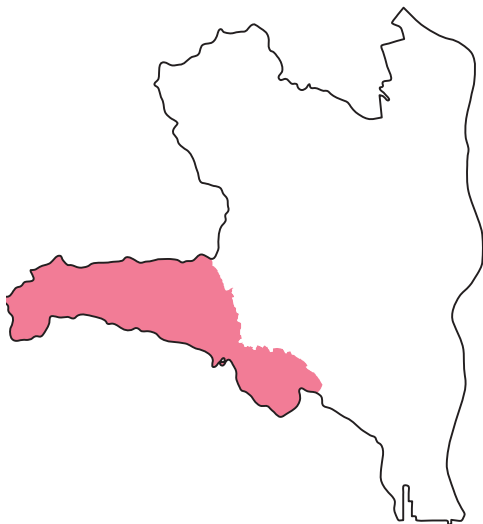
丹沢山麓の豊かな自然環

境に恵まれた玉川地区は、  
せんみ<sup>だこ</sup>凧など地域に伝わる  
伝統文化や、小野小町伝説  
などの言い伝えを未来につ  
なげます。

また、先人が育んできた  
地域の絆を次代へ引き継  
ぎ、安心して安全に暮らせる  
地域をつくれます。



1 丹沢大山国定公園





# 私 たちのまち 玉川

## 地区の特徴

- 玉川地区は、本市の西部に位置し、丹沢山麓の豊かな自然環境に恵まれています。地区内には、①丹沢大山国定公園、②県立丹沢大山自然公園、③小町緑地などがあり、緑豊かな里となっています。
- 本市の重要な観光資源の一つである④東丹沢七沢温泉郷があり、周辺はハイキングコースとしても親しまれ、多くの方が立ち寄っています。
- ⑤県立七沢森林公園は、里山を丸ごと整備した広さ約65haの県内最大級の都市公園※であり、季節を問わず多くの方が訪れます。
- 昔から子どもの成長を祝い、端午の節句に揚げられてきたせんみ凧の保存に力を入れています。また、「小野小町まつり」の開催など、地域ぐるみで郷土の伝説を後世に伝える活動も行われています。
- 室町時代の頃、自然の山を利用して築かれた山城があり、現在は⑥七沢城址の碑が残されています。
- 江戸時代から昭和30年代にかけて七沢石を使用した石仏、道標などが盛んに造られ、地区内には現在も多くの石材店が存在しています。
- 地区内には、森林等の自然環境の保全再生を推進している⑦県自然環境保全センターや、地域の森林を育て守り、環境保全に貢献している⑧厚木市森林組合など、豊かな自然に囲まれた玉川地区ならではの施設があります。

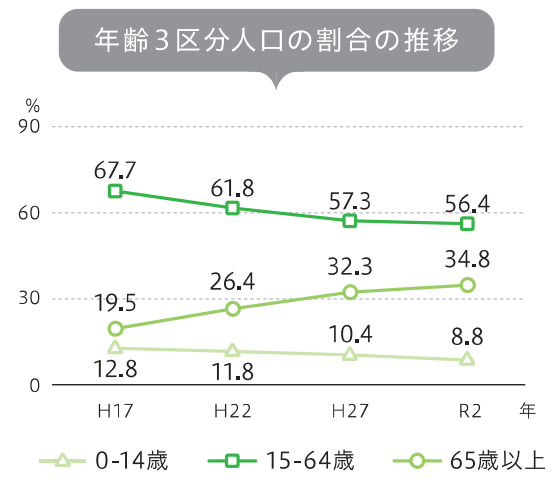
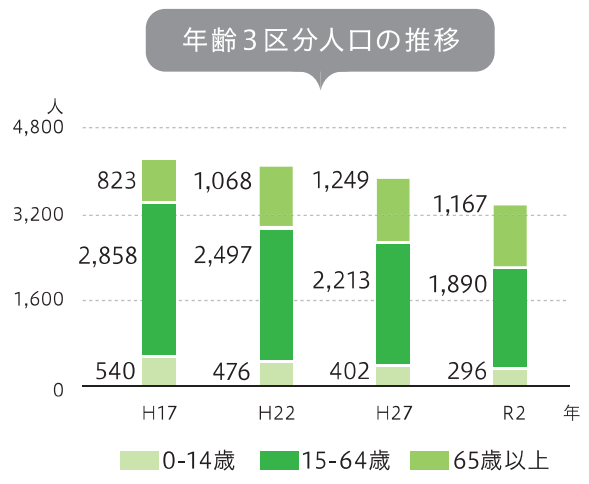


私 たちの目指すまちの姿

先人が育んだ伝統と絆を次代へ引き継ぐ  
丹沢山麓の豊かな自然に恵まれたまち 玉川

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 3,353人 （市全体の1.5%）  
■世帯数（令和2年10月） 1,560世帯 （市全体の1.5%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 玉川地区の人口は、3,353人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は8.8%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は56.4%、老年人口(65歳以上)の割合は34.8%となっています。  
市内15地区中最も人口が少ない地区で、年少人口の割合は市内で2番目に低く、老年人口の割合は市内で2番目に高い割合となっています。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 地区のほとんどが市街化調整区域※となっており、大山山地、山麓部の山林が大半を占めています。
- 玉川小学校は、少人数ならではの指導や、地域と連携した特色ある教育活動が展開されており、特例として通学区域外からの入学が認められる「小規模特認校※」に指定されています。
- 厚木秦野道路の整備が予定されています。
- 地区の一部では、公共交通の利便性が低い地域があります。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 買物等の日常生活や健康などに対する高齢者の不安の解消
- 生活に必要な利便施設等の誘導
- 地域の伝統文化や歴史の次世代への継承
- 路線バスサービスの確保や充実
- 路線バスサービスを補完する移動サービスの導入
- 東丹沢七沢温泉郷などへの観光客の更なる誘客
- 増加が予想される空き家の活用や適正管理
- 有害鳥獣による農作物被害やヤマビル被害への対策

### 主な施策の方向

- 玉川の治水事業を促進するとともに、土砂災害の発生が想定される区域における防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 高齢者が地域で生きがいを持って安心して生活できるよう、地域包括支援センター※を中心に、地域全体で支える体制の充実を図ります。

#### 2 包括的な支援体制の充実

- せんみ凧や小野小町伝説などの地域の伝統文化を保存・継承するための取組を推進します。

#### 3 郷土文化の継承と発展

- 交通環境の向上を図るため、道路などの基盤整備に取り組むほか、公共交通の利便性の低い地域や日常生活の移動に不便を感じている市民の移動の円滑化を図る取組の検討を進めます。

#### 4 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進、移動しやすい公共交通環境の整備

- 豊かな自然環境や温泉のほか、森林散策の効果を活用する取組など、地域の観光資源を活用した観光振興を図るとともに、丹沢・大山地域の観光拠点として、広域観光圏の形成を推進します。

#### 5 広域観光の推進、観光資源の磨き上げの推進

- 良好な住環境を保全するため、空き家の解消や活用に向けた取組を促進するとともに、新たな空き家化の予防を図ります。

#### 6 安全で快適な住環境の整備

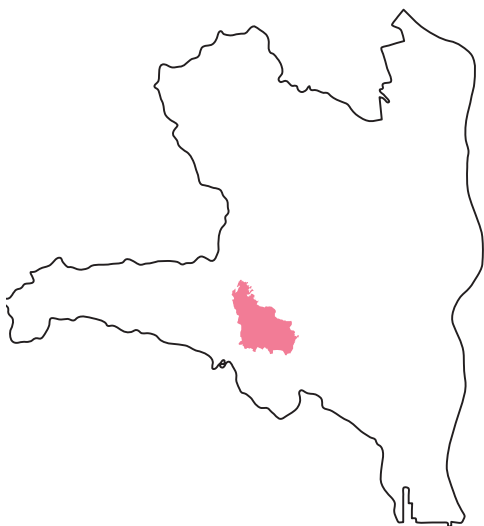
- 地域と協働して、有害鳥獣の対策やヤマビルの生息しにくい環境整備に取り組めます。

#### 7 鳥獣被害対策の強化

# 森の里地区

## ふれあい 宣言

たんざわさんろく  
丹沢山麓に抱かれた豊かな自然環境と計画的に形成された良好な住環境を有する森の里地区において、私たちは、鯉のぼり祭りや夏祭りなどコミュニティ活動を通じて住民相互の絆を育み、共に支え合える安心・安全な地域社会をつくりま



# 私 たちの まち 森 の 里

## 地区の特徴

- 森の里地区は、開発により整備された自然と調和した静かな住宅地が広がっており、幼稚園から大学までの教育機関や高度な研究開発を手掛ける大手企業の研究機関が立地しています。
- 地区内の公園や道路の歩道、「四季の路」などの遊歩道には、多種の木々が植栽され、1年を通じて四季を感じることができます。
- ①若宮公園では、初春に香しい梅の花が咲き誇り、4月下旬頃からは、園内の木々が新緑となり、毎年恒例となったたくさんの鯉のぼりが宙を舞います。
- 「鯉のぼりまつり・夏まつり・クリスマスまつり」は、30年以上続く地区の三大祭りと言われており、毎年多くの方が訪れる地区の風物詩となっています。
- 森の里郷土かるたは、②森の里小学校や③森の里中学校などの協力により、森の里にちなんだ内容で作成されています。学びながら遊べることから、地区のお祭りなどで子どもたちに好評を得ています。
- 地区内をぐるりと囲むように、遊歩道や歩道などに23体のユニークなふくろうの石碑が置かれ、道行く人を見守っています。
- 若宮公園には、中国揚州市ようしゅうから寄贈された風月亭という古典的建造物があります。また、D51広場にD51蒸気機関車が置かれており、地区のお祭りなどでミニSL乗車会が開かれています。
- 住民が主体となって、交流の場の創出や高齢者の生活支援、子育て支援のボランティア活動など、地域ぐるみで様々な取組を行っています。
- ボランティアによる見守り活動や清掃活動が活発なことから、安全で静かな住環境が維持されています。



(都)厚木環状3号線

(都)下古沢  
森の里青山線

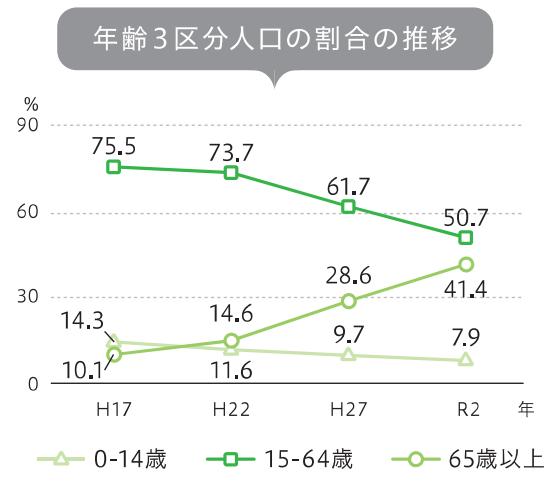
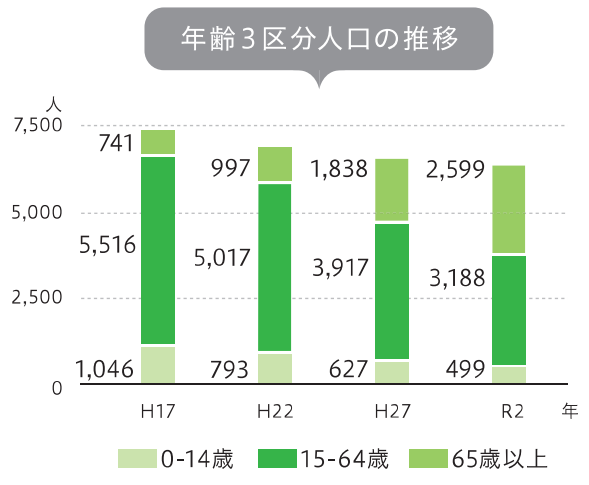
(都)船子殿

私 たちの目指すまちの姿

丹沢山麓に抱かれた良好な住環境の中  
地域の絆で支え合う安心・安全なまち 森の里

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 6,286人 （市全体の2.8%）  
■世帯数（令和2年10月） 2,744世帯 （市全体の2.6%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 森の里地区の人口は、6,286人となっています。年少人口（15歳未満）の割合は7.9%、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は50.7%、老年人口（65歳以上）の割合は41.4%となっています。  
年少人口、生産年齢人口の割合は市内で最も低く、老年人口の割合は最も高くなっています。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 地域と協働した教育活動として、地区の住民が講師となって地域の歴史などを伝える特別授業が開催されるなど、地域で子どもたちの成長を支える取組が進められています。
- 地区の中心に若宮公園が整備されているほか、街区公園※などの小規模公園や遊歩道「四季の路」が整備されています。
- 地区の西側には厚木秦野道路の整備が予定されており、北側には(仮称)森の里インターチェンジの整備が予定されています。
- 地区の周辺では森の里東土地区画整理事業が実施され、企業誘致が進められており、都市計画道路※厚木環状3号線の整備など、産業環境の充実が図られています。



## 地区の皆さんが感じている課題

- 土砂災害警戒区域の安全対策
- 買物等の日常生活や健康などに対する高齢者の不安の解消
- 児童・生徒数減少に対応した学校規模の適正化や学校施設の有効活用
- 路線バスサービスの確保や充実
- 増加が予想される空き家の活用や適正管理
- 安全で静かな住環境の維持や居住の誘導
- 新たな産業用地の創出をいかした定住促進

### 主な施策の方向

- 土砂災害の発生が想定される区域の防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 高齢者が地域で生きがいを持って安心して生活できるよう、地域包括支援センター※を中心に、地域全体で支える体制の充実を図ります。

#### 2 包括的な支援体制の充実

- 小・中学校の適正規模・適正配置の検討に取り組みます。

#### 3 安全な教育環境の整備

- 路線バスの輸送力等を強化し、住民の快適な移動環境の向上に取り組みます。

#### 4 移動しやすい公共交通環境の整備

- 良好な住環境を保全するため、空き家の解消や活用に向けた取組を促進するとともに、新たな空き家化の予防を図ります。

#### 5 安全で快適な住環境の整備

- 産業地との近接性や、ゆとりある良好な住環境など、地区が持つ魅力の情報発信等に取り組み、定住促進を図ります。

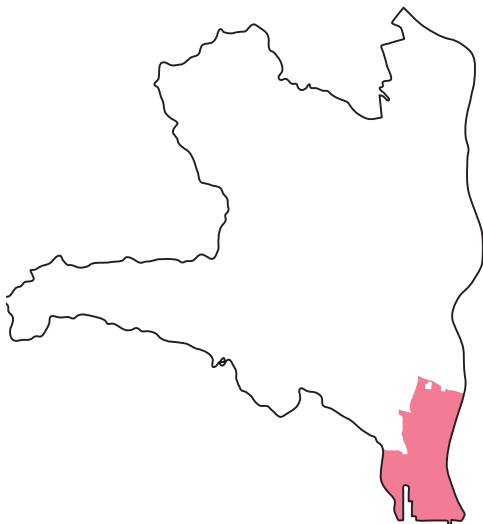
#### 6 定住促進に向けた取組の推進

# 相川地区

## ふれあい 宣言

相模川の景観や緑豊かな自然環境に恵まれた相川地区は、厚木の南の玄関口にふさわしい自然と調和した潤いのあるまちづくりを進めていきます。

また、相模里神楽など地域の伝統ある文化や芸能を受け継ぐとともに、住民相互が支え合い安全で安心して暮らせる明るい地域社会を目指します。



# 私 たち の ま ち 相 川

## 地区の特徴

- 相川地区は、本市の南部に位置し、①厚木インターチェンジと②厚木南インターチェンジが配置された利便性の高い広域交通ネットワークを有し、市の南の玄関口として発展しています。
- 相模川の景観や緑豊かな風景が美しい地区です。また、花や果物、野菜の栽培が盛んで、各方面から観光農園※に多くの人々が訪れています。
- 田園風景から大山、富士山を望み、四季の移り変わりを感ずることができます。
- 春には③戸沢橋<sup>とざわばし</sup>周辺、④笠張川<sup>かさはりがわ</sup>沿いや⑤玉川緑道沿いの桜並木を楽しむことができます。
- 本市の指定無形民俗文化財である相模里神楽を始め、県指定重要文化財である⑥法雲寺<sup>ほううんじ</sup>の不動明王立像<sup>ふどうみょうおうりつぞう</sup>や、市指定有形文化財である⑦飯出神社<sup>いひでる</sup>の銅鐘<sup>どうしやう</sup>があるなど、貴重な文化財や、歴史と伝統が残されています。
- ⑧三島神社<sup>こやす</sup>や⑨子易神社<sup>はちまん</sup>、⑩八幡神社の境内には、関東大震災の被害を忘れず後世への教訓とする記念碑が残されています。
- 相模川沿いには遊歩道が整備されています。また、⑪相模大堰<sup>さがみおおぜき</sup>や⑫戸田の渡し記念碑もあり、ウォーキングなどを楽しむ多くの人でにぎわいを見せています。
- 相模川河川敷にある⑬酒井スポーツ広場や⑭戸沢橋スポーツ広場などは、住民交流の場となっています。



県道22号  
(横浜伊勢原)

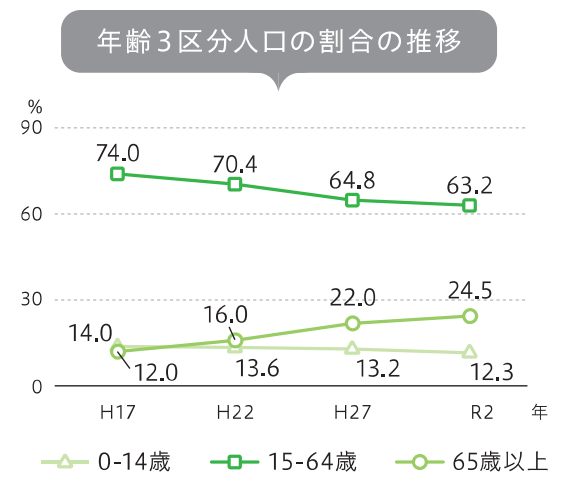
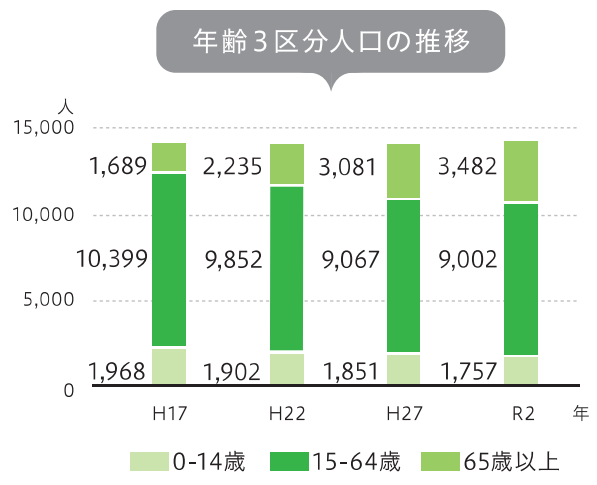
(部) 社 家 岡 田 線

# 私 たちの目指すまちの姿

伝統を受け継ぎ、明るい地域で人々が支え合う、  
豊かな自然に恵まれた南の玄関口のまち 相川

## 地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 14,241人 （市全体の6.4%）  
■世帯数（令和2年10月） 6,756世帯 （市全体の6.4%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

## 地区の現状

- 相川地区の人口は、14,241人となっています。年少人口（15歳未満）の割合は12.3%、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は63.2%、老年人口（65歳以上）の割合は24.5%となっています。  
老年人口の割合は市全体（25.8%）よりも低い割合となっています。[住民基本台帳に基づく人口（令和2年10月1日現在）]
- 新東名高速道路厚木南インターチェンジが開通し、酒井地区では、新たな産業拠点の整備に向け、土地区画整理事業が進められています。
- 東名高速道路、新東名高速道路、国道129号が縦横に走る本市の南の玄関口となる地区で、物流機能や業務機能が集積しています。
- 地区の安心・安全や良好な生活環境を維持する活動など、行政と地区住民が連携して、より良い地域づくりに取り組んでいます。
- 地区の一部では、公共交通の利便性が低い地域があります。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 相模川、玉川の治水機能の向上
- 地域の水辺環境をいかしたレクリエーションや憩いの場の整備
- 買物等の日常生活や健康などに対する高齢者の不安の解消
- 外国籍市民が地域社会の一員として共生していくためのコミュニケーション支援や仕組みづくり
- 地域の伝統芸能や文化の次世代への継承
- 厚木インターチェンジから厚木南インターチェンジ周辺への計画的な土地利用の誘導
- 幹線道路※に接続している道路の混雑緩和
- 歩行者の安全確保
- 路線バスサービスの確保や充実
- 路線バスサービスを補完する移動サービスの導入
- 南部の農地の保全や果樹等を活用した観光農園の充実

### 主な施策の方向

- 相模川、玉川では、川に沿って形成されている豊かな自然環境の保全を図りつつ、自然災害に備えた計画的な治水事業の促進に取り組みます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 高齢者が地域で生きがいを持って安心して生活できるよう、地域包括支援センター※を中心に、地域全体で支える体制の充実を図ります。

#### 2 包括的な支援体制の充実

- 外国籍市民が地域社会の一員として共に暮らすことができるよう、地域住民と交流できる場の創出や、快適な生活を送るために必要な活動へのサポートに取り組みます。

#### 3 多文化共生の推進

- 相模里神楽や社寺が保有する重要な文化財など、地域の伝統芸能や歴史を保存・継承するための取組を推進します。

#### 4 郷土文化の継承と発展

- 広域的な道路ネットワークをいかした土地利用を図り、南部産業拠点の形成に向けた取組を推進します。

#### 5 新たな産業拠点の整備

- 交通環境の向上を図るため、道路などの基盤整備に取り組むほか、公共交通の利便性の低い地域や日常生活の移動に不便を感じている市民の移動の円滑化を図る取組の検討を進めます。

#### 6 市民生活や産業活動を支える道路ネットワークづくりの推進、移動しやすい公共交通環境の整備

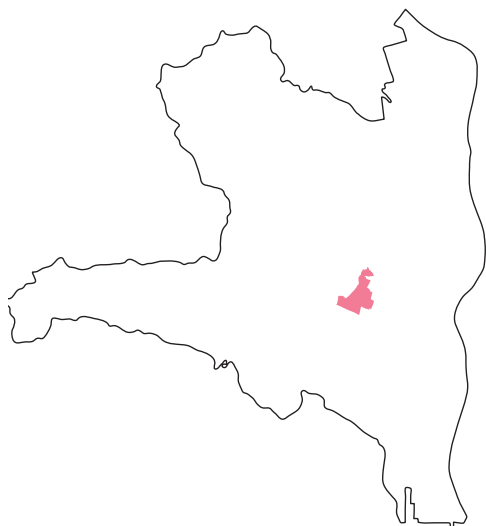
- 農業の担い手の確保や営農環境の維持・向上等に向け、関係団体等と協働して取り組みます。

#### 7 農地有効利用の推進

# 緑ヶ丘地区

## ふれあい 宣言

自然に恵まれた閑静な住宅街の緑ヶ丘地区は、この良好な住環境の保全に努めるとともに、「ふるさと祭り」や「地域活動」などを通して、住民相互のふれあいや絆を深め、笑顔とあいさつがあふれる安心・安全なまちづくりを目指します。





# 私 たちの まち 緑ヶ丘

## 地区の特徴

- 緑ヶ丘地区は、本市のほぼ中央に位置し、あまでらはら尼寺原台地に整備された住宅地が広がり、良好な住環境が形成されています。
- 台地上にある地区のため、洪水による浸水や地震による液状化の危険度は低くなっています。
- ① 緑ヶ丘さくら公園は、春には桜がきれいで、お花見を楽しむことができます。
- ② 緑ヶ丘商店街では、毎年「ふるさと祭り」が開催され、郷土意識の高揚と住民相互の触れ合いが図られています。また、自治会の加入率は9割を超え、「3世代ふれあい交流会」の開催など、地域全体で子育てに取り組んでいます。
- 地区の南部には工業地域があり、あまでら尼寺工業団地の一部を形成しており、多くの企業が立地しています。
- ③ 緑ヶ丘西公園や④ 林王子青少年広場では、住民が健康維持のため、グラウンドゴルフやターゲット・バードゴルフを行っています。
- 防犯意識を高めるため、毎月27日の「交番の日※」などに、地区住民が防犯パトロールを実施しています。

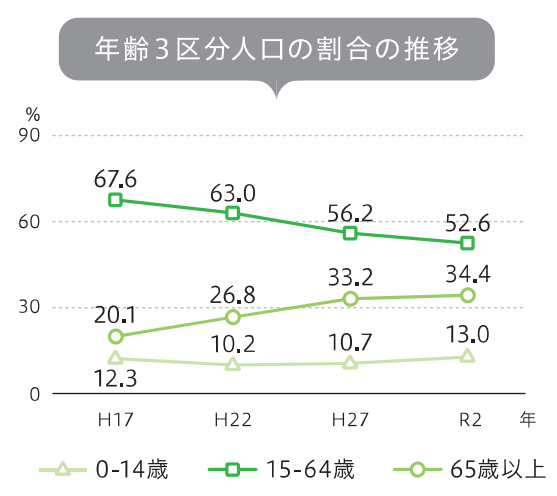
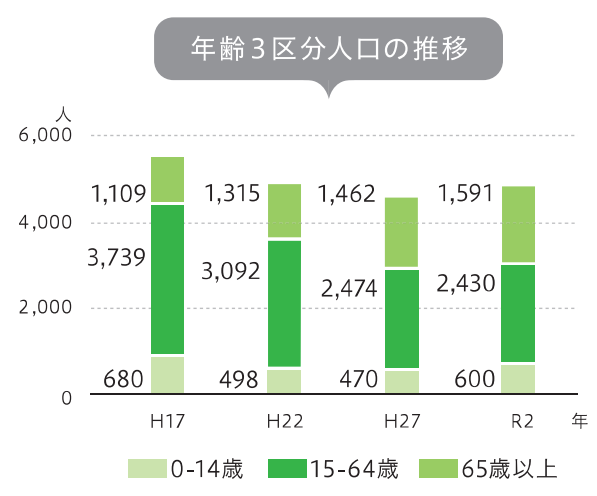


私 たちの目指すまちの姿

住民のふれあいや絆を深め、自然と調和する  
笑顔とあいさつがあふれるまち 緑ヶ丘

地区の概要・データ

■人口（令和2年10月） 4,621人 （市全体の2.1%）  
 ■世帯数（令和2年10月） 2,216世帯 （市全体の2.1%）



出典：平成17年・22年・27年は総務省「国勢調査」から作成、令和2年は住民基本台帳から作成（各年10月）

地区の現状

- 1 緑ヶ丘地区の人口は、4,621人となっています。年少人口(15歳未満)の割合は13.0%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合は52.6%、老年人口(65歳以上)の割合は34.4%となっています。  
 年少人口の割合は市全体(12.0%)よりも高く、市内15地区の中で4番目に高い割合です。[住民基本台帳に基づく人口(令和2年10月1日現在)]
- 2 開発により整備された住宅地があり、良好な住環境を形成していますが、高齢化が進んでいます。
- 3 主要な幹線道路※に接続している道路を多くの車両が通行し、朝夕の通勤、通学時間帯は交通混雑が発生しています。
- 4 地区にはゴルフ場が隣接しており、災害時の広域避難場所として指定されています。

## 地区の皆さんが感じている課題

- 通勤、通学時間帯における児童・生徒を含めた歩行者の安全確保
- 高齢者が活動できる場の確保、介護予防や生活支援の充実
- 外国籍市民が地域社会の一員として共生していくためのコミュニケーション支援や仕組みづくり
- 路線バスサービスの確保や充実
- 幹線道路に接続している道路の混雑緩和

### 主な施策の方向

- 土砂災害の発生が想定される区域の防災・減災対策を進めます。

#### 1 災害に強い社会基盤の整備

- 交通事故を防止するため、地区の安心・安全な暮らしの維持に取り組みます。

#### 2 交通安全対策の強化

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、日常生活を支援する体制の充実を図ります。

#### 3 高齢者福祉サービスの充実

- 外国籍市民が地域社会の一員として共に暮らすことができるよう、地域住民と交流できる場の創出や、快適な生活を送るために必要な活動へのサポートに取り組みます。

#### 4 多文化共生の推進

- 路線バスの輸送力等を強化し、住民の快適な移動環境の向上に取り組みます。

#### 5 移動しやすい公共交通環境の整備

